ヤマハニュース 12

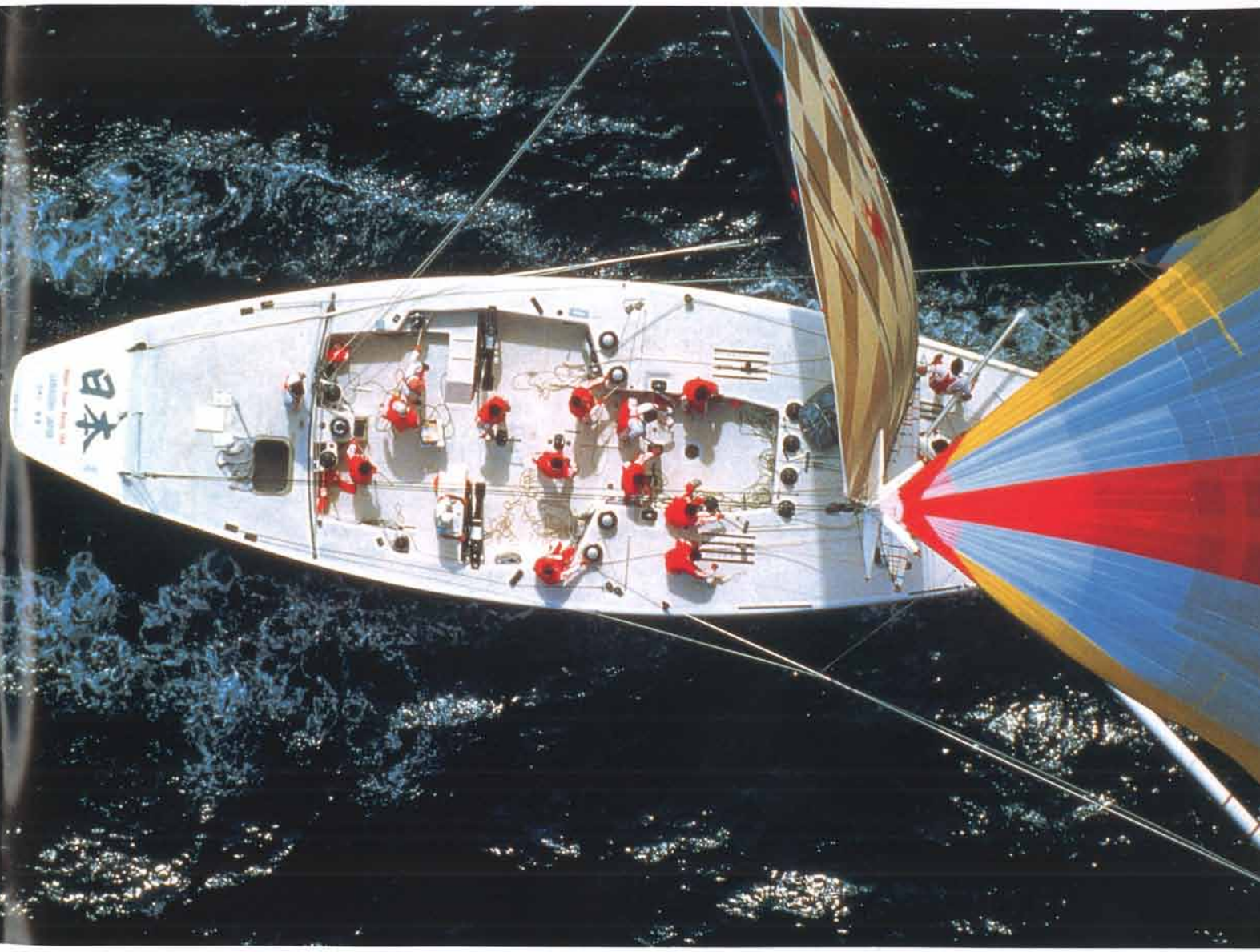
YAMAHA NEWS NO.342 1991

ヤマハ人と技術●感動創造企業を目指して—2
ヤマハ挑戦の歴史に新たなる一頁
アメリカズカップ

特集●感動のフィールドへ—6
新しいモーターサイクルとの出合い

特別企画●ヤマハブースから発信！—17
第29回東京モーターショーライブ

新たなる一頁——アメリカズカップ



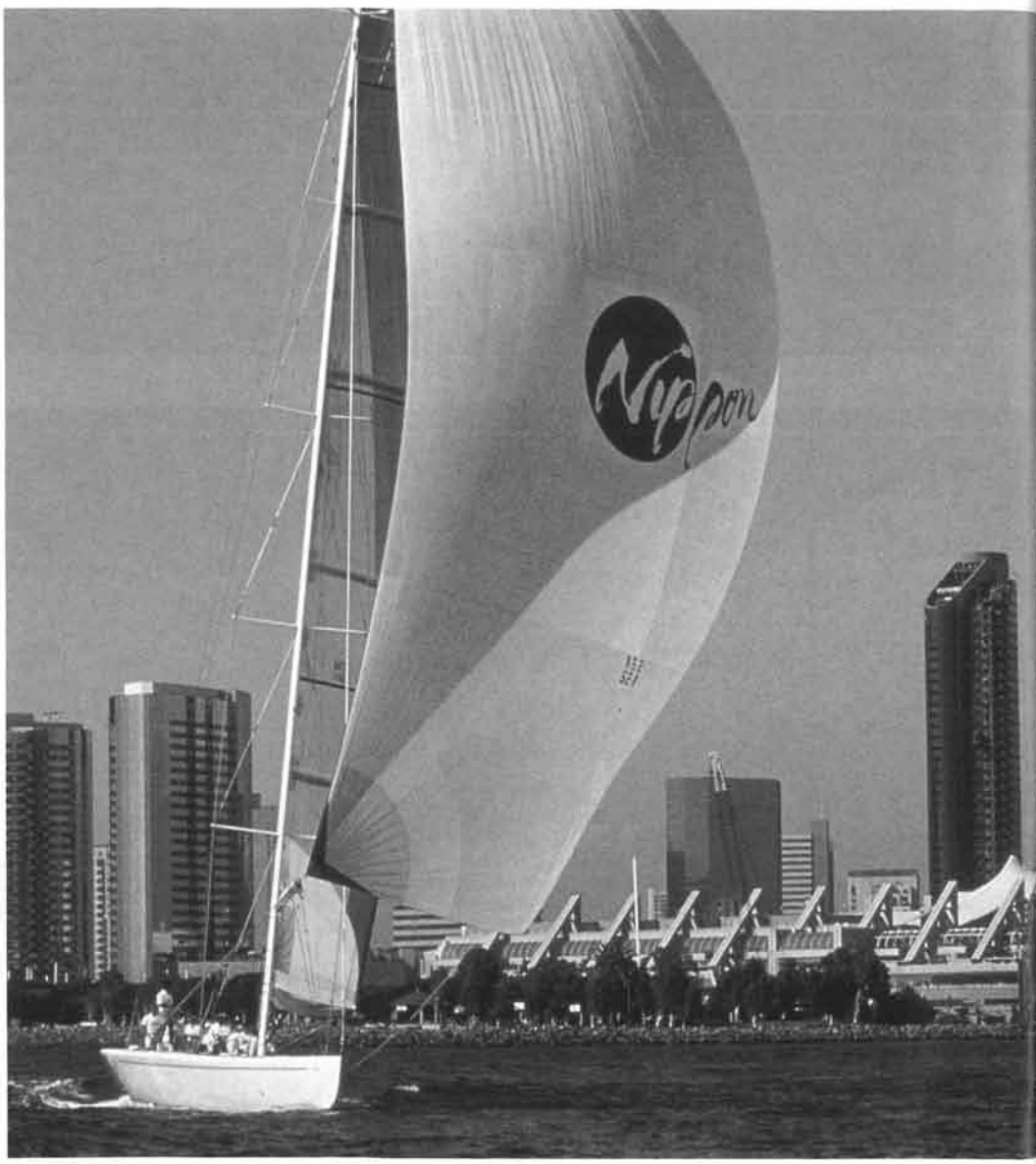
Nippon©

NIPPON CHALLENGE
AMERICA'S CUP 1992

組織は"人"であり、人が集まり"組織"を成す——。YA1による富士登山レースへの挑戦を皮切りに、ヤマハは数限りない挑戦を繰り返し、実戦による高い技術力を培うとともに数多くの栄光を手中に納めてきた。
そして、この挑戦の陰には勝利の二文字を目指し、あくなき情熱を傾注する誇り高き"人"の存在がある。
今、世界最高のヨットレース『アメリカズ カップ』の覇者となるために、ひとりの男が全身全霊をかけている。妥協のない世界だけを見つめる男から、ひしひしと伝わるエネルギーこそが、組織の力の源であることを実感した。

文・山本一成(モーターサイクルジャーナリスト)

ヤマハ挑戦の歴史に



国の威信をかけた人と技術の戦い

「何からお話しましょうか。技術的なこと、チーム体制のこと、このレースの歴史的なこと、何から始めてもいいですけど、とりあえずすぐに理解してもらえそうなスチールフィルムがありますので、まずはこれから見ていただきましょうか」

これが蒲谷勝治さんの第一声だった。いきなり取材方法をこのように仕切られたのだから少々面食らった。忙しい方だから、取材は手短かにしたいのかと思ったが実はそうではなくて、何に対しても積極的に取り組み、密度の濃い時間を過ごそうとしていらっしゃる方であることが、しばらく話をお聞きしているうちにわかってきた。

その蒲谷さんはヤマハ発動機マリン本部第一技術部長を経て現在「アメリカズカップ」のニッポンチャレンジ実行委員であり、技術責任者であり、ベースキャンプ責任者でもある。

そのアメリカズカップというのは、もちろんご存じの方は多いと思うけれど、いうなれば140年の歴史とロマンに培われてきたマリン界における史上最強のヨットレースであり、完璧なまでに人、モノ、費用の条件を整えないと勝利は有り得ないといわれている。クルマのF1レースをイメージしてもいいが、こちらはあくまでも企業競争ではなく国の威信をかけたオリンピックのようなもの。アメリカをはじめとする参加国の大半は国民総出でこのレースを見守るというほどのものだ。

開催地は米国サンディエゴ。対戦方法は、まず防衛側と挑戦側に区分される。防衛側のアメリカは2チームが代表権を争ってディフェンダーズ・トライアルを行なう。一方の挑戦側は日本、オーストラリア、フランス、ニュージーランド、イタリアなど予定の9カ国10チームがルイ・ヴィトン・カップというチャレンジャー・トライアルを行なう。これはラウンド・ロビンという総当りのレースを3回。そしてセミファイナルを経て、ファイナルが行なわれ、最終的にチャレンジャーが決まり、5月に行なわれるアメリカズ・カップでディフェンダー代表と7戦中4勝先取という方法で闘う構成になっている。

〝勝つ〟ための体制

挑戦側有力チームといわれている日本は「ニッポン・チャレンジ・アメリカ杯1992委員会」を結成。エスビー食品、日本航空、三井物産など大手企業30社がオフィシャルスポーサーとなっており、「草の根応援団」が集めた寄付金も活動資金となっている。その金額は約60億円にものぼるという。

ヤマハ発動機はその幹事会社であり、同時にニューアメリカズカップクラス

艇"Nippon"の建造を担当する。現在、3号艇がヤマハ新居工場で建造中であるが、全長23・9m、水線長21・5m、最大幅5・3m、吃水4m、マスト長32・5mというビッグレーサーの誕生となるもので、これはヤマハでも過去最大のFRPヨット建造（客船では29mのFRP船を建造している）である。そしてこの建造に当たって中心人物になっているのが蒲谷さんなのである。

蒲谷さんがこのレースに関わったきっかけは1983年のこと。舞敵を誇っていたアメリカに対してオーストラリアチームが勝った時、その技術力は素晴らしく「技術に壁はない！」と感激したことがこのヨットレースに対するエネルギー源になったという。

「日本のヨットの歴史はまだ短いですが、このレースに出た1、2号艇によって設計の手法はかなり整理されました。たとえばそれまで耐用年数は7年という設定でしたが3号艇では8カ月しかない。レースという極限の設計、つまり一切妥協のないものを作るわけです。無論、16名の乗員にも最高を求め、スキッパーにしても世界的に有名なマッチレーサーであるニュージーランド生まれのクリス・ディクソン氏を招き、最高のヨットを最高の操縦で走らせる。そして、簡単な組織に適度な競争原理が働くことが、勝つための要素と考える訳です」

調和なくして真の勝利はなし

多くの人の集合で最高最善を求めるとなると考え方の違いから当然そこにはあつれきが生じることもある。ある人選で行き詰まったとき、蒲谷さんはこの委員会の副会長である江口秀人社長に相談を持ちかけた。

「天才的なマネージングができる男でも、やはりクルーたちが自発的にやる気になる体制が作れなければ続かない。その時だけの人材パワーよりも、人を育て上げて生まれるチームパワーのほうが結局強いであろう。勝つことと同時に人間の調和を保つことが大事であり、また文化的創造にもつながると思う」

この江口社長のアドバイスで人選も一歩進んだという。世界最高水準の技術に本気で取り組む姿があるからこそ人選にも最善を求めるのは当然の姿であろう。

「ヤマハの素晴らしい点は、調和を最優先した能力主義であることですね。

船体にはデリケートな特殊素材が使われるため、積層作業は一定温度と湿度が保たれた炉の中で行なわれる。作業には職人芸とも呼べるほどの腕が要求される

そして、このような最先端のことをやっていて痛感することは基礎技術のすばらしさです。難しい問題が出てきたときに、基礎に立ち返り、素早く洗練された解答を引き出せる企業なのです」

ところで蒲谷さんは父親がヨットの船大工だったことから、子供の頃から自分で木製ヨットを作っていた環境にあり、ヨットレースも長い間見てきたひとりである。そこで日本がビッグイベントでなかなか勝てなかった理由を聞いてみた。

「まず、生まれたときからヨットに乗っているかどうかというのが大きい。親のそのまた親の代から乗っていた国とは歴史が違う。日本はこれからでしょう。次に、勝負に対する執着心がまったく違う。クリスは自分の考えを貫き通すために母国からはじき出されてしまった。日本じゃ考えられないことでしょう。レースに関するすべてに一切の妥協がないから、ヨットの製作についても次から次へと問題提起してくる。これが設計に生かされた時、初めて勝てる船ができるのです」

米国サンディエゴにあるベースキャンプの全景

〝夢〟の実現こそ感動の具現化

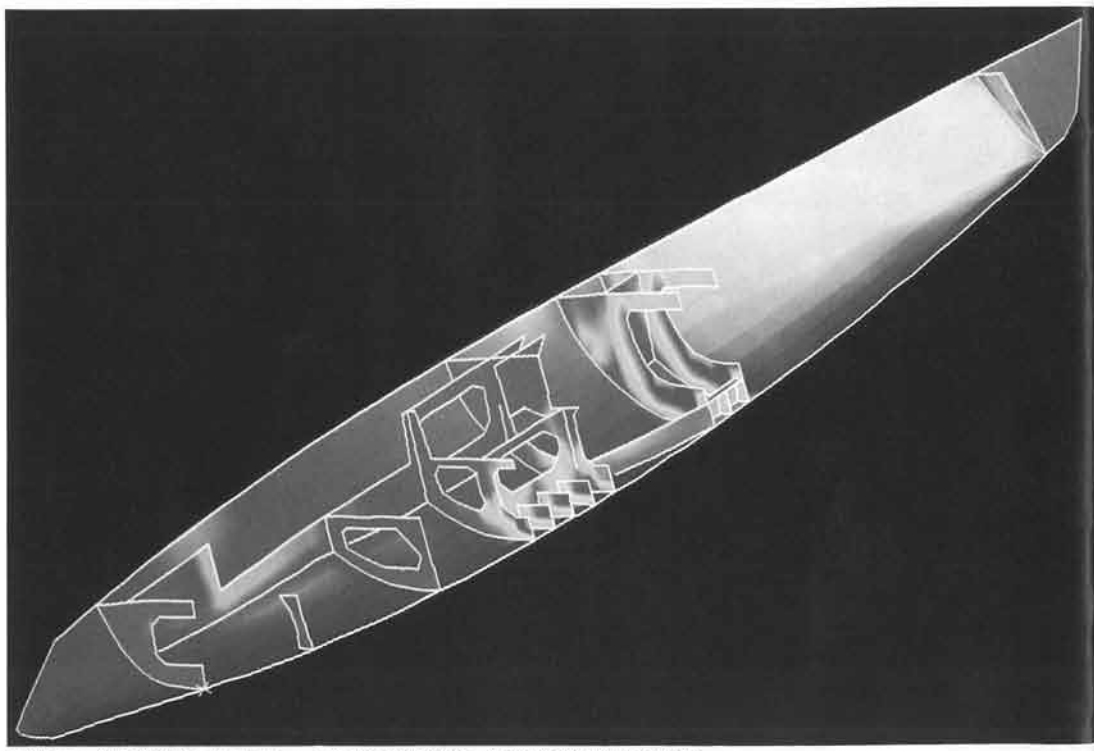
1レースは非常に長く約2時間半。体力の限界まで闘う。でも、単純に速く走ればいいってものじゃない。相手の出方を見て向きを考え、タイミングをとり、風と闘う。もちろんレース前は気象の専門家がデータをそろえ、メカニッククルーが不眠不休で整備に当たる。陰の力も少なくない。

こうしてわずか70cm足らずの銀の杯を求めて大の大人が本気になって戦いを操り広げる。無駄を承知でここまで彼らを夢中にさせるものは一体何であろうか。ロマンとひとくくりにするだけではあまりにもそっ気ないが、夢中になって、やりたいことをとことんやれる幸せがロマンの代名調なのであれば、これ以上適切な言葉はないかも知れない。

蒲谷さんのパワフルなエネルギーの源は「ヨットが好き」から始まっている。技術者であるまえに情熱家として、歳を取る暇を人に与えず、やがて人を魅了する吸引力を発揮するようになる。自然にリーダーシップがそこから生まれ、人を感動の渦に巻き込む。蒲谷さんをはじめとする海の勇者たちの限りない夢は1992年のアメリカズカップで大いに花開くに違いない。

◆

本企画は今号をもって終了させていただきます。一年間にわたるご愛読ありがとうございました。


豊富なデータが盛り込まれたコンピュータによる構造解析で、ムダな肉のない船体が出来る

蒲谷勝治プロフィール

1975 『舵』誌ヨットデザインコンペ優勝。
1977 ヨット設計主任としてヤマハ入社。以降、数多くのヨット設計と技術開発に取り組む。
1987 オーストラリアでアメリカズカップを見学。ニッポンチャレンジ発足。
1988 第1技術部長
1989 アメリカズカップ室長
1991 ニッポンチャレンジ・サンディエゴ(米国)駐在。実行委員、ベースキャンプ、技術担当。8月帰国、3号艇設計チーム総括。12月、サンディエゴへ赴任。

ターザイクルとの
出合い

特集

感動のフィールドへ。

新しいモー

201万8500人の来場者数を記録し、14日間の幕を閉じた第29回東京モーターショー。ヤマハブースは「感動のフィールドへ」をテーマに、人々の暮らしを豊かに演出するモーターサイクルの素晴らしい世界をアピール。連日、多くのファンがつめかけ熱気に包まれました。今回の特集は、ヤマハブースに寄せられた予感、期待、さまざまな声を集めてみました。もっと感動を、そして新しいフィールドを！　チャレンジ、ヤマハにご期待ください。

MORPHO II

ライダーとマシンが語り合う。最新テクノロジーを身にまとって僕らを誘う。

半田頼樹さん(31)／東京都・服飾デザイナー

コンセプトモデルと言っても、モルフォIIの場合は**どの機構もすぐに実現可能なものばかりですよね。**2WSもCESも、もちろんABSも。確かに一見すると夢のバイクですけど、ひとつひとつのメカニズムは決して夢ではないという気がします。パーソナライゼーションという言葉になるとよく分からないんですけど、要はライダーとバイクがひとつの物体になる、もしくは近づくという考え方ですよね。この思想は、**安全にも大きく貢献する優れたもの**であると感じます。スタイルに関しては私の齢ではちょっと、という気もしますけど、近い将来、モルフォIIのようなデザインが主流となるような予感がします。

神林健一郎さん(21)／千葉県・学生

いま自分の理想のバイクを絵に描くとしたら、たぶんかなりのセンでモルフォIIに似るんじゃないか、と思います。いろいろな装備もきることながら、**やっぱりデザインがカッコいいですよね。**何より夢がふくらみます。

たとえば、ほら、冒険家の風間深志さんが雑誌のインタビューで〝バイクで月を走りたい〟なんて話しましたけど、**モルフォIIが月面を走っていても異和感がない**と思いませんか？　少し話が飛躍しすぎてるかもしれませんけど、夢がふくらむというのはそういうことなんです。

もし数年後にバイクの使い方や機構、デザインなんかが大きく変わる時代が来ると したら、きっとヤマハがやるだろうなと期待させる一台ですね。

福原広昌編集長／月刊オートバイ

最近はなんとなく沈みがちなムードの二輪界だけに、今年のモーターショーが心配されたが、ヤマハブースの**モルフォIIを見て、ホッとしました。**「おっ、まだまだ元気あるじゃないか」なんてね。今考えられる技術の全てを盛り込んだうえ、環境のために**キャタライザーをいれるなど、ちゃんと時代も反映している。**「未来のオートバイ」とか参考出品とかいいながら、しっかりと〝今〟のオートバイになっているところが面白い。調整可能なライディングポジションというのは、認可の問題などで簡単には実現できないのだろうけど、その作りがしっかりしていればむしろ安全につながる。なんとか頑張って市販できるようにしてほしいですね。それにスタイリングもあのままなら、「とうとうこういう時代が来たのか」なんて**ワクワクした気持ちになるんじゃないかな。**

村越　豊社長／YSP長岡東

『モルフォII』は、**徐々に夢のカタチが現実のものとして近づいてきた**感じがしますね。注目している点は、可変式のポジションや大型液晶パネルと連動した**カードキーシステム。**可能性が広がるよね。パーソナルデータを入力しておけば自動的に自分の好みのセッティングが施されたり、ガソリンやオイルの残量、ブレーキパッドの減り具合い、タイヤの空気圧などのデータが表示され、調整が必要な箇所は警告が出るとかね。人間に対してやさしい機能だし、お客さんへのインパクトも強いでしょう。ただ、カラーリングは私個人の好みじゃない(笑)。前回のほうが好きだなぁ。カラーリングも好みでいろいろオプション設定されるといいね。

五十嵐　修社長／YOU SHOPイガラシ

理想を追ったバイク、ということで、現実とはちょっと違いけれど、それだけに**いろいろ夢を加えてみたいバイク**です。一番気にいってるのは、ライダーに合わせてポジションが変えられるところ。今のお客さんって、1台のバイクで多目的に使いたがるから、街乗り用、ツーリング用、スポーツ走行用にハンドル位置やシート、ステップまでセットし直せれば、これは人気でますよ。ついでにサスペンションごと車高も変われば、オン・オフモデルになるでしょう。でも、現実的に考えると、YPVSやEXUPなどの**デバイスを自分で調節して、エンジンの性格そのものをカンタンに自分の好みで変えられる**ほうが、若いお客さんにウケるかもしれないね。

山下哲彦(技師・商品企画課)

「モルフォIIは1型と比較してより現実的なレベルへと成長させましたが基本的な開発コンセプトはモーターサイクルと人間、環境とのハーモナイゼーションです。そのための最新技術の具理化、憧れの技術の提唱ということです。また、IIではモーターサイクルをめぐる交通社会環境への配慮を加えているところが大きな違いです。2WS(前後輪操舵)、CES(電子制御サス)、ABS(アンチ・ロック・ブレーキシステム)などの技術を盛り込んでいますが、これは技術のための技術ではなく、より広くより多くの人に乗ってもらうためのもの。いうなればパーソナライゼーションであり、人と機械のコミュニケーションが狙いです。バイクを取り巻く環境はあまりにも厳しく、誰もが夢を失っているときではないかと思うからこそ、ヤマハはネクストを感じるものに真剣に取り組んでいるのです。モルフォIIはわれわれヤマハの情熱だと思ってくだされば幸いです」

ヤマハからのメッセージ

倉知　誠(技師・開発第43課)

「モルフォIIでは人と環境への調和という考え方が様々な形で主張されています。まず、排気系にキャタライザーをセットしたのも環境対応に積極的に取り組もうとする意志表示です。次に車体系ですがライダーの体格や好みや走行シーンに応じて調整可能なハンドル、シート、ステップの採用はもとより、さらにシートパッド、ニーパッド、フレームパッドを設けてマン・マシンのソフトな一体感を狙っています。エアマネジメントについてはフェアリング、ナックルガード、ニーフラップ各部に可変プロテクション機構を採用し、しかもこれらのアジャストはすべて電動式。エンジンは水冷4サイクルDOHC4気筒400cc。この排気量にしたのは大型免許の有無に関わらず誰でも乗れるものを優先したからです。外観的にもマシンに優しい表情を演出させるフェンダーパッド、アームパッド、ケースカバー等にソフトな材質を使い斬新な塗装を施しました。

マフラーも外へ突き出した形ではなく、リヤアーム一体形状とし、ソフトでクリーンなイメージとしました。

2WSですが、これは今までのバイクの乗り味を変えるためのものでなく、操縦性と安定性を非常に高い次元で両立させようとするものです。2WSに加えて前輪のスイングアーム式モノクロスサスの採用にも注目してください。これらの技術は夢ではなく、具体化を目指し真剣に取り組んでいるものばかりなのです」

人と地球にやさしい。やがてきっとエコロジーブームが来るぞ！

Frog

鹿島武比古さん(29)／千葉県・会社員

カッコイイという感じでもないし、カワイイっていうのとも違う、**ひと言で表すならチャーミング**という表現がピッタリですね。技術とか、先進性とか、最近のスクーターはスポーツバイクの尺度で計られているような気がしますけど、スクーターの魅力って違うところにあると思うんです。ほら〝ローマの休日〟の中でオードリー・ヘプバーンがベスパに乗るでしょ、別に懐古趣味ではないんだけど、ああいったイメージを僕は持ってるんです。

フロッグなら『ローマの休日』に**出てきても、誰も違和感を感じない**んじゃないですかね。電動スクーターというのはあまりピンと来ないけど、スクーター本来の魅力を感じるという点で一番印象に残ったモデルです。

小池合行雄さん(26)／埼玉県・会社員

いつかはこういう時代が来るんじゃないかと思ってたけど、**まさかこんなに早く、しかも完成されたカタチでエレクトリック・スクーターが出てくるとは思いませんでした。**四輪の方にも同じようなコンセプトのモデルが展示されてましたけど、どちらかと言えばスクーターの方が現実的でしょ？　たとえば家庭用のコンセントで充電するなんてのは、四輪ではちょっと考えにくいですもんね。いまのエコブームを**一過性のブームで片付けずに、ヤマハにはぜひ市販化して欲しいと思います。**僕は山形の生まれですから、東京の道路の汚れがとても気になるんです。道路脇の街路樹なんか、排ガスでまっ黒に見えるでしょ。電動車が普及すれば、ああいう身近なところから改善できると思います。

ヤマハからのメッセージ

中村成也（商品企画課）

「まず、外観がユニークでしょ。新しい動力源に対して平凡なものは避けたかった。近未来に対して人々に新しい何かを訴えるのにユニークさは不可欠。

さらにあらゆる空間に優しく調和し、長い間乗っても飽きられにくいものをデザインしたのも、省資源として必要だと考えたからです。まず、これがヤマハのこれからの姿勢のひとつだと思ってください。

使用方法は今までのものとなんら変わりなく、誰にもすぐ乗りこなせますが、音や排気がないメリットを活かした領域での実現化を研究中です。

エコロジカルなトランスポーターとして是非とも期待して欲しいですね」

フロッグの前で高橋さん（左）と中村さん

高橋博幸（第3開発部31課）

「現段階では航続距離と充電時間の入れ替えが大きな課題ですが、現実の使用状態からすれば駅までの足や買物用としてまずまずのレベルに達しています。

モーターはロボットやＦＡモノレール開発で培ったヤマハの小型高性能モーター技術を基本にしたブラシレスＤＣモーターであり、さらに電子制御技術による小型・軽量コントロールユニット等がフロッグの特徴です。

バッテリーについてヤマハは環境適応をもっとも優先して考えています。一般に広く使われている通常の鉛酸タイプを使用していますが、これだとユーザーズコストが低く抑えられ、鉛も再利用できる。さらにバッテリーケースもＡＢＳ樹脂ですから粉砕できるというメリットがあります。排ガス問題という一面だけをとらえて開発しているわけではないのです。ランニングコストについてもこのフロッグではフル充電で約２円。現在の50ccスクーターに比べてさらに経済的です（１キロワット23円の家庭用100ボルト電源使用）。

電気モーターは、クリーンで静かなことだけでなく回転を始めたときから最大トルクが発生することと、加減速でもエネルギー消費の変化率が少ないこと。また、減速時に回生制動といって慣性エネルギーを充電に回すシステムが使えることです。もちろん信号待ちなどではモーターは止まりますから無駄がない。

都市問題と環境問題に積極的に対応するヤマハのスピリットとして、このフロッグの熟成を心待ちして欲しいと思います」

近田 茂／モータージャーナリスト

明日にでも市販に移されるのでは、と思えるほど完成度が高く見えますね。ヤマハではモーターに関する技術もかなりのノウハウがあるから、あまりアピールしていないようですけどかなり進んだところにきているのではないでしょうか。

また、**このデザインがいいですよね。**若い女の子から年配の人まで、一切の気がねなしで乗れて、それでいてすごく**オシャレな感じ**がする。どんな背景にも似合いそうだし、ひょっとしてこれが**デザインの先端**かもしれない。もし電動スクーターとしての登場が遅くなるようなら、**50ccのエンジンでもいいから、発売したら**ウケると思います。

僕としてはモルフォIIも含めて、とにかくヤマハがショーモデルをしっかり作ってくれたことが嬉しかったですね。そんな意味では、ちゃんと花になっているし、**見る人に夢を与えて**くれている。

鈴木 昇社長／ＹＳＰ小平

未来的なバイク像としては、フロッグが目を引いたね。**ガソリンに代わる新しいエネルギー源として電気を取り上げた**ことで、四輪業界がすでにやっているエコロジーへの取り組みを二輪も忘れていないんだとアピールできたでしょう。それに**ヤマハは、船のほうで電動モーターの船外機をすでに商品化しているからバイクでやったっておかしくない。**

むしろ遅かったくらいじゃないかな。今後は、スポーツ車での実用化とか、リサイクルパーツの採用とかにも目を向けてくれるといいね。エネルギーでは、ほかにメタノールとかもあるし、いろいろトライして独創的な商品がどんどん開発されてほしいね。

鈴木光男社長／ＹＳＰ葛飾

〝地球環境を考える〟という意味では、四輪に比べて遅れていることもあり、電動スクーターは大いに歓迎すべきものですね。ちょっと音風のデザインも、今の流行に合っているし、もし発売されるとしたら老若男女を問わず売りやすい商品になるでしょう。それと、**家庭用コンセントから直接つないで充電できるのは、街乗りを考えればすごく手軽で便利**だと思います。

ただ、バッテリーの持続時間が課題だろうね。電気の残量をこまめに気にしながら走るのは面倒だもん。また、今のスクーターはヘルメットスペースがあって当然、みたいなところがあるし、そのほかの**積載能力も大きなポイント**でしょう。

こういった条件がクリアになれば、ぜひ市販してほしいと思います。

小野啓一さん(25)／千葉県・アルバイト

バイクらしいバイクって何だろうと考えると、余計なものがないってことのような気がするんです。必要以上のパワーとか、レーシングマシンのような装備とか。そういったものをすべて外してシェイプアップされたモデルに、僕はバイクらしい魅力を感じるんです。削り出されたような美しさがある。SRV250もそう。東京モーターショースペシャルなんか、一緒に展示されていた東京モーターショーでもバイクらしさを感じましたね。特にバイクらしさを見るとすごく思うんですけど、みんなフォルムが未来化しすぎてて、なんとなく拒否反応が出ちゃう。四輪のブースだってそうです。だからこそSRV250のようなバイクが、すごく新鮮に思えるのかもしれませんね。

五十嵐智子さん(25)／東京都・会社員

パッと見てすぐに感じたのが、フツーのバイクだなってことです。どういうとこがフツーなのかっていうと、乗る人を選ばない、いつまでも乗れそうなスタイルだからです。たとえば節とっても、ダンナさんとふたりでツーリングに行けそうなモデルだと思います。サンドウィッチ持って、リュックを背負ってね。山見たり、川見たり、そんな気取らない旅にピッタリなんじゃないかな。それと私が特に気に入ったのは、渋めのカラーリング。逆に東京モーターショースペシャルとして展示してあった黄色の方は、ヤマハのトライする気持ちが表れていましたね。

根本 健編集長／ライダースクラブ

実を言うと今回のモーターショーで、最も気に入ったモデルがSRVなんです。とにかく仕上がりが美しくて、全体のバランスがよく取れている。エンジンはビラーゴと同じで、出力こそ低めだけどとても扱いやすく、マシンのイメージにピッタリだっていうのが乗らなくても分かりますよ。こういう気負いのいらない静かな雰囲気のバイクって、絶対大切だと思います。

発売する時にはカラーバリエーションをたくさん揃えて欲しいですね。せめてショーモデルだけでも、いろんなのをズラッと並べて見たかった。

注目という意味では、モルフォIIやフロッグの方が強いのだろうけど、SRVのファンになる人もいるわけで、要するにひとつの方向性に無理に定めることなく、ヤマハはヤマハらしく欲張ってラインナップを広げていけばいいのではないでしょうか。SRVもモルフォIIも、共存していていいと思うんですよね。どっちも早く乗ってみたいです。

笹原徳行社長／YSP山形西

今、スポーツバイクの流れが、ネイキッドに集まってますよね。そのなかで、まったく新しい個性を打ち出してきたSRVに、すごく興味をひかれました。

美しい空冷・Vツインエンジンを載せたヨーロピアンスポーツ。いいですね。すごくキレイにまとまってるし、完成度も高そう。早く市場に出してほしいね。

ウチの場合、ギンギンのスポーツ派というお客さんが少なくて、ムードとか気分を楽しむ人が多いので、今から欲しいという声も出てます。

従来のモデルに飽きてきてるお客さんの代替えですすめやすいんじゃないかな。あるいは、一度バイクをやめたリターン客の掘り起こしや、新規なら女性も大いに脈あり、と感じました。

欲しいもんだ。こいつは期待度五つ星！

センスが光るね。おしゃれに

SRV250

大波加慎一（商品企画課）

「開発コンセプトはしゃれた趣味商品のひとつとしてこのバイクを位置づけ、分別ある大人の男が走る、曲がる、止まる、磨く、眺める、をじっくりと味わっていけるもの、としました。やはりトラッドな雰囲気の外観にしたのは端正な美しさの普遍性がそこにあり、多くのモーターサイクルファンからも理解されやすいからです。一般的に25歳を超えてバイクに乗っていると大人に見られにくいのですが、このバイクで趣味性の良さを訴えたいわけです。また、25歳を超えると降りてしまう人が多いのですが、継続して乗っていたくなるものを目指しました。250ccという排気量にしたのも経済的負担を減らしたかったからです。

デザイン論に戻りますが、基本的にはあまり生活感が出るような処理にはしたくなかったのです。あれもこれもと便利さを追求していったら結局クルマに負けてしまいますからね。やはり、バイクにしかできないこと、そしてこのバイクならではのイキな部分をうまく使いこなして欲しいのです。一言でいうと、気負うことなく乗れるモーターサイクル。成熟された社会で大人のいい趣味として理解されたらうれしいですね」

ヤマハからのメッセージ

根岸廣介（第一開発部）

「ビラーゴのエンジンは250ccながらなかなか味わいのある特性をもともと持っているんですよ。この長所を残しつつオーソゴナルマウントでいやな振動を消すようにした。けれどもおいしい鼓動はきちんと残したんです。これは結構新しい感覚ですよ。そして、音色もちゃんと追求しています。ソウルフルなツインができたと自負しています。

メカは簡単にいえば吸気系にはダウンドラフトのツインキャブレターを装着。フレームは高張力鋼管ダブルクレードル型。サスペンションはまったくオーソドックスなものを前後にセット。ブレーキも前がシングルディスク、リヤはドラム式として、伝統的にまとめています。ハンドリングは走ることの奥深さがわかるように、しっとりした味になっていて、外観同様に飽きのこないものになっていると思います。新しいスタンダードテイスティモデルとしてSRV250に期待してください」

原　秀夫社長／YOU SHOP HARA

これ、いいね！ **早く市販化してほしい**モデルだよ。個人的にVツインって好きだし、何よりヨーロッパ車の臭いがする**スタイルが最高**。特に**タンク回りのライン処理はイタリア車みたい**で最も気に入ってる部分だよ。

スタイルが最高。特にタンク回りのライン処理はイタリア車みたいで最も気に入ってる部分だよ。

お客さんもけっこう知ってる人が多いけど、評判いいしね。ウチの店でいえば、20代から30代の人が主なターゲットかな。

お客さんもけっこう知ってる人が多いけど、評判いいしね。ウチの店でいえば、20代から30代の人が主なターゲットかな。お客さんもけっこう知ってる人が多いけど、評判いいしね。ウチの店でいえば、20代から30代の人が主なターゲットかな。

今、レトロっぽいデザインが若い人にも人気だし、大学生のあたりにも十分イケルと思う。250ccじゃ非力だっていう人もいるけど、不自由しないレベルなら全く問題ないでしょう。もともとスピード出して走るために買うバイクじゃないんだから。

それより、小型ウィンカーをつけたり、シートカウルでシングルシートにしたりして、**ドレスアップを楽しむ人が多いんじゃないの。**

'91年のYESS活動総決算!! ソフトボール大会で お客さまと今年最後の交流(コミュニケーション)

YSP仙台東(宮城県仙台市/斎藤實(まこと)社長)

一年間のYESS活動の総仕上げは、気分を換えてソフトボールで!!
シーズンオフ間近の仙台で行なわれた『YESSカップ・ソフトボール大会』。
今年最後のお客さまとのコミュニケーションを目的に、
お店ぐるみで参加した『YSP仙台東』さんを追ってみた。

シーズンオフに欠かせないコミュニケーション

東北地区の冬は早い。11月に入れば冷たい風が体を刺して、街で見かけるライダーの数もめっきり減ってしまう。そうかと思えばたちまち雪が降りだしライダーは愛車を格納してしまうだろう。となれば当然、お客さまの足はお店から遠ざかり、コミュニケーションを図る機会は激減する。ここが北国の販売店さんの頭の痛いところだ。

春から秋にかけてツーリングやエンデューロレース、店頭イベントなどで築いてきたお客さまとの絆が、冬への突入とともにプッツリと途断えてしまう。バイクに乗れない間に、お客さまが他の趣味に移行してしまうという不安もあるだろう。春になったら必ずお客さまがお店に戻ってくるとは限らないのである。

そもそもYESS活動とは、遊びを通じてバイクファンを拡大し、お店のファンを育てるためのもの。遊びを介したお店とお客さまのコミュニケーションが途断えてしまっては、いままでの活動が意味のないものになってしまう。

YSP仙台東さんが、ヤマハ東北・仙台営業所主催による『YESSカップ・

ソフトボール大会」にお客さまを集めて参加したのも、これからシーズンオフを迎えるに当たって、お客さまとの関係をより緊密にしたいと考えてのことだった。

お客さまに声をかけると、人数はすぐに集まった。女性や家族連れのお客さまもいる。普段はツーリングやレースで行動を共にしているみなさんだが、今回はハンドルをバットに持ち替えての参加というわけだ。ただ、こうして声をかけるだけですぐに参加者が集まるのも、YSP仙台東さんがシーズン中、お客さまを思い切り楽しませてきた証拠だろう。

積極的なYESS活動が春の店頭を賑やかに！

当日、お客さまは待合わせの朝7時までに全員が集まった。斎藤社長はお店に残り、高校時代、野球部に所属していたサービスマンの伊藤さんがお客さまを引率する。

参加チームは仙台市周辺のYESSショップ10店と、販売店さんやお客さまとのコミュニケーションを目的に参加したヤマハ関連4チーム。ソフトボール大会は仙台営業所にとっても初めての試みである。

YSP仙台東さんのチームは、予選リーグでヤマハボート仙台店に3対2と快勝。決勝リーグでは7対2でYSP古川東さんのチームに敗れたものの、当初の目的であったお客さまとのコミュニケーションは十分にとれたことだろう。

そろそろお客さまも、愛車を格納する季節。しかしYSP仙台東さんのお客さまは、また来年の春、間違いなく元気な顔でお店に現れるはずだ。

We Love Yamaha

好きだからちょっと一言

厳寒の地のホットな交流 人情が築いた〝ヤマハ〟ブランド

今年もウインタースポーツの季節がやってきた。桜前線とちがって雪便りは、北国の販売店さんにとってはあまり歓迎したくないのが正直なところかも知れませんね。

でも、ウインタースポーツファンにとっては待望のシーズン。中でもスノーモビルは、乗り場の整備や雪積地帯のリゾート地での導入などで、知名度とともに愛好者が増えている。

お店のお客さまからもこの冬はスノーモビルに乗ってみようかな、なんていう声が聞かれているのでは？

そこでスノーモビルの話をちょっとしてみよう。クイズのノリで、スノーモビルの開発はどんな所で行なわれているか、考えてみてください。

北海道、北米…。様々な地でヤマハは開発やテストを行なっていて、中でもアラスカでの耐寒テストやニューモデル走行実験は、マイナス30度の世界で繰り返し行なわれている。

場所は、アンカレッジから北東約380キロのパクソンという村だ。ちょうどフェアバンクスとアンカレッジの中間地でもある。

村といっても人口27人。この村にヤマハは17年も前からテスト地として訪れているという。'91年の冬は、開発モデルが多いとかで、30名近いスタッフが、時にはマイナス40度にも下がる酷寒にも耐え、実験に取り組んでいるのだ。

パクソンの村にとっては、その時期、一気に人口は2倍になるわけだ。当然、村の人々との交流が生まれる。各種の実験は、1カ月ほどのスケジュールで消化するというから、かなりのハードスケジュールだ。

それでも仕事を終えた後は、シンシン、いやいやビシバシと冷えこむ屋外をよそに、パクソンロッジは、Tシャツ姿で、談笑の花が咲く。そんなわけで、村人は全員ヤマハファンだ。最高に盛り上がるのは週末パーティ。

パクソンロッジは、スタッフが使用する〝ホテル〟でもある。ガソリンスタンドと、ロッジと公衆電話があれば、晴れてダウンタウンと呼ばれるほどの厳しい地域で、パクソンロッジはその条件を満たしているわけだ。まあ、早い話、村の集会場みたいなもんだ。

週末、最高に盛り上がるのには理由がある。カラオケ、ビリヤード、バー、どれもパクソン唯一の娯楽施設で、「ヤマハカップ」の冠つき日本VSアメリカのノド自慢、腕自慢大会となるのだそうだ。

テストチームのスタッフの中にはすでに10年以上も毎年来ているヤマハマンもいる。言葉はもちろん達者で、すっかり〝住民〟のようにとけこんで、人間関係を深めているともいう。

ヤマハからみれば、テストの地として最適だ、と主張しても、受け入れる側のパクソンの人々が、「それはお前たちの勝手な考えだ」と、なれば、20年近くも、また、人間関係も続かないはず。テストチームのリーダー的存在の（Sさんとしよう）方が、「エンジニアであるまえに人間であれ。社交性を持て」というのだそうだが、まさに至言だ。

スノーモビルのあらゆる使用途に対応できるハードなテストをする技術者集団ではあるが、その一方で、こうした国際交流が、酷寒の地でホットに継続されているのである。

スノーモビルは、バナナで釘が打てる荒涼とした大地で、ヤマハマンとパクソンの人々の友情で育ったウインタービークルといえそうだ。

●

「We Love YAMAHA」へのご意見ありがとうございました。

本企画は今号をもって終了させていただきます。

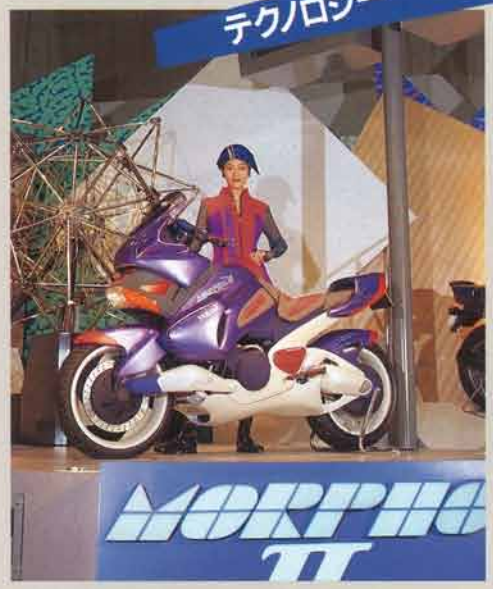
感動のフィールドへ。
The 29th Tokyo Motor Show LIVE

人にやさしく、環境にやさしい、より人間の感性に近いモーターサイクル。――
これはかねてからヤマハが目指すモーターサイクル造りの基本的なテーマですが、
折しも今回の東京モーターショーの全体テーマは〝発見、新関係。人、くるま、地球。〟というもの。

熱狂の2週間、来場者の視線を釘づけにしたヤマハブース!

大手4輪各社から環境や人に対応する最新テクノロジーが数多く発表される中、
ヤマハは前衛的なオブジェが並ぶ「都市」をイメージしたブースいっぱいに、
日頃の研究・開発の成果であるテクノロジーと感動のモーターサイクル世界を披露。
その卓越した表現と最新のモデル群が、来場者の絶賛をあびました。

テクノロジー



最新テクノロジーを満載し、パーソナライゼーションと社会環境に対応することで大きな注目を集めた〝モルフォII〟を中心に、最新のバイクライフを提案したメインステージ

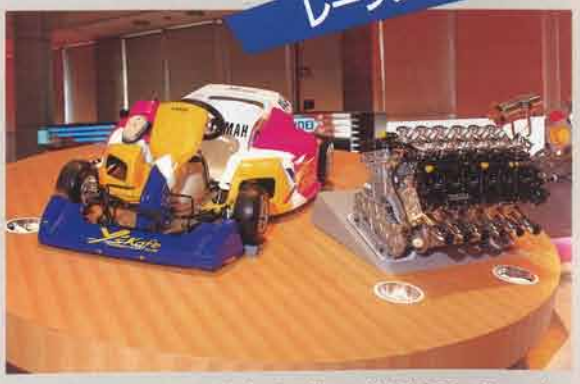
ビギナーからベテランライダーまで、幅広い層から高い評価を得た〝ＳＲＶ250〟。さらにこのＳＲＶとSR400、ＳＲＸ400をベースにしたスペシャルバージョンの美しさが、バイクフリークを釘づけにした

テイスティ

スクーター

150ccのスタイリッシュスクーター〝フライワン〟。ヤマハモーター台湾(株)よりの参考出品車だが、高い機動力と完成されたデザインに国内発売の期待が集まった

レーシング



ＹＺＲ500やＹＺＦ750と並び、Ｆ１用エンジンやヤマハニューカート〝ＦＫ-9〟も展示。底辺から頂点までをフォローするヤマハのモータースポーツに対する取り組み姿勢と先端テクノロジーを表現

感動のフィールドへ。
The 29th Tokyo Motor Show
LIVE

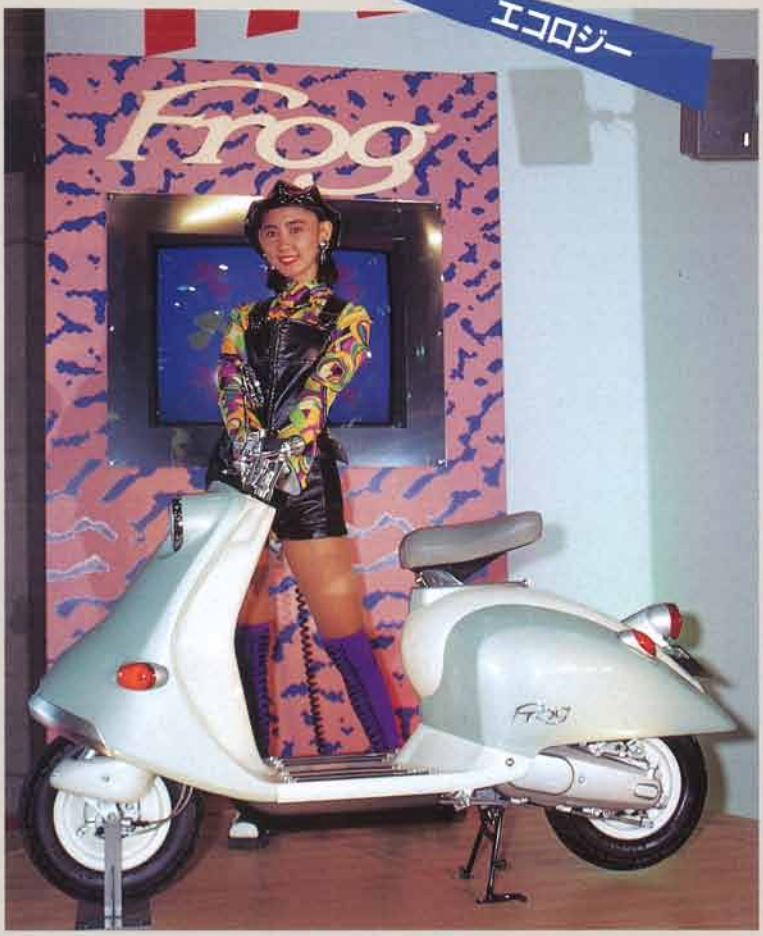
家族づれやカップルが実際の乗車感や感触を楽しんだ市販車展示コーナー

Y.E.S.S.インフォメーション

モーターサイクルを使っての遊びの世界は、来場者も興味の高い部分。入会の問い合せや質問をする人で大いに賑わう

笑顔の対応と清潔感あふれるユニフォームが好評を呼んだコンパニオンのみなさん

エコロジー



ＤＣモーターをパワーユニットにしたエレクトリックスクーター〝ＦＲＯＧ〟。クリーンなエネルギー、電気を使っての環境対応への技術力とともに、そのユニークなスタイリングが話題を呼んだ

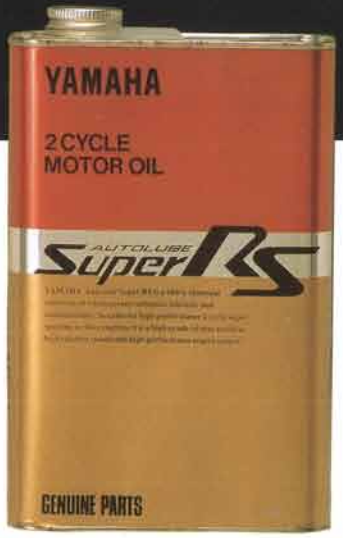
オンロードスポーツ

おなじみDiversionの輸出モデル〝ＸＪ600Ｓ〟を中心に配し、ＴＺＲ250Ｒ、ＴＺＲ50、Ｒ1-Ｚ、Zealでオンロードの走りの世界と楽しさを表現。個性ある走りのバラエティーの豊富さが来場者をうなずかせた

オフロードスポーツ

ブームの頂点にあるオフロードスポーツだけに、このコーナーを目当ての来場者も多い。特に話題を呼んだのは左の〝ＷＲ250Ｚ〟。エンデューロマシンとしてのポテンシャルの高さに話題が集中した

用品コーナー



標準小売価格：¥1,920(1ℓ)
価格には消費税は含まれておりません

快適ライディングのための液体パーツ

ヤマハ2サイクルモーターオイル

好評発売中

AUTOLUBE Super RS

オートルーブ・スーパーアールエス

快適な走りを約束する、ヤマハ純正の100%化学合成2サイクル専用モーターオイルです。好評の〝スーパーR〟をさらに進化させ、高い潤滑性と耐焼付性を実現。ライダーや環境にやさしいスモークレス設計も施し、お客さまのライディングシーンをより快適なものとします。

実際の店頭にみたてた会場で、とび込み客を想定しての接客審査。親切、丁寧、適確な対応が要求される

迅速なトラブルの発見と迅速な修理はもとより、車体の汚れや保険切れなど、車両への細かな気配りも審査対象とし、まごころサービスを採点

見積り審査では、車両のチェックからはじまり、交換パーツのリストアップ、見積り書の作成で競われた。短時間での素速い作業が要求された

優勝、準優勝、第3位、そして優良店に選ばれたみなさん。明日のご商売への大きな自信と糧を掴まれたようです

『技術と信頼、まごころサービス』
'91ヤマハスタートーナメント全国大会 開催

10月30日 ヤマハリゾートつま恋(静岡)

『技術と信頼、まごころサービス』をスローガンに、お客さまによりレベルの高い技術サービスと大きな満足を提供することを目的に、全国のYSP、YOUSHOPの販売店のみなさんを対象に行なっている〝スタートーナメント〟が今年も開催されました。

今回の総参加数は400名、その中から地区予選を勝ち抜いた30名が、全国8ブロックの代表として全国大会へと進出。日頃ご商売の中で発揮されている技術を、厳しい審査による学科、実技、接客、見積りの4項目にわたり競い合い、いずれも劣らぬ高いサービス力といきとどいた〝まごころサービス〟を披露しました。

優勝したYOU SHOP・モトメンテ 小松 敬治さん

優勝もうれしいが、この大会によって自分の弱点が発見できたのが大きな収獲でした。今後はこの弱点を補うよう努力し、さらに大きな満足をお客さまへ与え、信頼される店として商売に反映させていきたいと思います。

from SAFETY

安全の話題

夏の暑さより冬の寒さが大敵 原付車の運転は特に用心！

先日、秋の交通安全運動の実施結果が発表されました。

1月から8月までの累計で、死者数こそ前年比2.4%減となっているものの、事故発生件数は1.6%増加しているだけに、運動期間中は各地域ごとで積極的な展開がはかられていました。

しかし、結果として全体で311名の死者を数え、前年比5.1%増という皮肉な形となっています。

状態別でも、二輪車が2.5%減となったほかは四輪車、自転車、歩行者ともに増加。二輪事故の減少を際立たせただけの残念な数字といえます。

そのなかで、唯一明るいニュースは、和歌山、鳥取、高知の3県で期間中の交通事故死者ゼロを達成したこと。

今後にわたっても、ぜひこうした実績を重ねてほしいものです。

さて、12月は1年の中で最も交通事故死者の多い月。ここ数年の月別推移をみると、若干の相違を無視すれば、ほとんど毎年同じ傾向です。

昨年を例に取ると、1年間の合計死者数1万1,227人に対し、12月はおよそ1割にあたる1,147人で、年間トップ。師走という慌ただしい時期なので、運転者の注意力が散慢になりがちなためと思われます。

状態別にみると、やはり業務などで走り回る四輪が最も多く、およそ4割を占めています。忘年会シーズンということから、飲酒による場合もけっこう多いのではないでしょうか。同じことは歩行者にも言えますが、特に高齢者の場合が目立つようです。

肝心の二輪車はどうか、というと、グラフで見てもわかるとおり、原付車と自動二輪では月ごとの増減が大きく異なります。特に12月は、自動二輪がピーク時の半分にまで減っているのに、原付は逆に最高を記録しています。

これは、趣味性の強い自動二輪と通勤、通学など利便性の高い原付という性格、使われ方の違いによるところが大きいと思われます。つまり、乗車機会にかたよりのある自動二輪と、通年で変化の少ない原付の差でしょう。

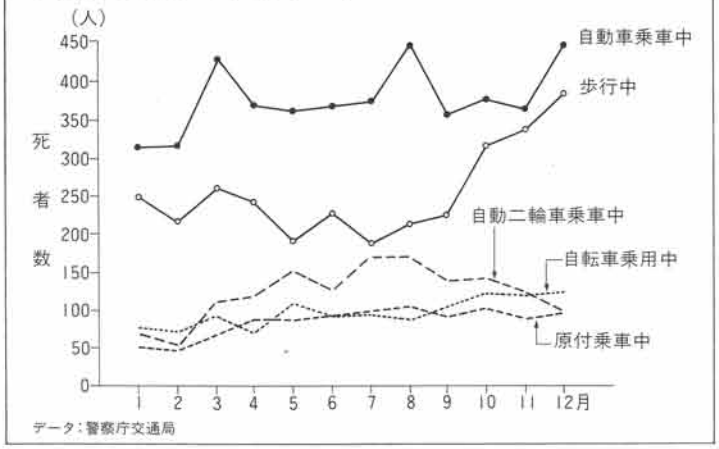
しかし、注目しなければならないのは、なぜ原付に12月の事故が増えるのか。すなおに考えれば、さほど夏と変化が少ないとはいえ、寒くなると原付の乗車機会も減るはずです。

原因は、冬の寒さにあるのではないでしょうか。寒いから早く帰りたいというアセリ、そして運動能力の低下、凍結などの路面変化が、事故につながっていると考えれば説明がつきます。

冬が寒いのは当然ですが、寒いからこそ夏と同じようなつもりで運転していては危ないのです。特に原付は、自動二輪に比べて気軽に乗れるものだけに、そのメリットが逆に注意力不足をまねきかねません。

わかっていそうでわかってない冬の落とし穴に、充分な注意を払いましょう。

■状態別死者数の月別推移（'90年）



データ：警察庁交通局

光ってる！ライトとマナーとライディング

第4回Y.E.S.S二輪車セーフィスローガンとマンガ募集／スローガンの部・グランプリ作品

静かにやさしく、いい運転。

●やめよう、マフラーの不正改造！

●いつでもどこでも、絶対しない空ぶかし！

SALES
1年間の総決算と合わせて販促活動も〝棚おろし〟しましょう！

師走。ふだんはドッシリかまえているエライさんたちまで忙しく走り回るといわれる季節。

ご商売にとっては通常の仕事に加えて今年1年の収支計算や商品在庫の棚おろし、来年の販売計画など、今やっておかなければいけないことが山積みし、つくづく師走の意味をかみしめておられることでしょう。

しかし、だからといってサボるわけにもいかないことばかり。ここはひとつ、腹を据えてじっくり取り組んでください。

なかでも、ついおろそかになりがちなのが、販促活動のチェック。DMを打ったり広告を出したり、あるいは各種イベントを開催したり、さまざまに工夫を凝らしてみても、やりっ放しでは意味がありません。

計画どおり実施できたか、その結果はどうだったか、収支は?……など、反省点を洗い出しておきましょう。

そのうえで、来年は何をどういう形でやるか、年間、月間のスケジュールと目標を立案し、予算組みを練っておきたいものです。

その時は、自分ひとりでやろうとせず、お店のスタッフや担当セールスマンをまじえて、ワイワイ賑やかに話し合いたいですね。3人よれば文珠の知恵、といいます。チームワークをがっちり固めて、みんなで明日のご商売考えましょう。

特に、担当セールスマンは、ヤマハとお店をつなぐ大切なパイプ役でありパートナーとなります。

とことん意見を交換して、ゆるぎない信頼関係のもとで最善のプロモーションをおつくりください。

成功のカギは、そこにあります。

Y.E.S.S.
ツーリングゾーンを世界に広げよう スーパーツーリング.inオーストラリア

あの雄大な大陸へ、まだ見ぬ異国の人々や自然との触れ合いを求めて旅したいと、海外ツーリングに夢はせるライダーが増えています。

しかし、自分ひとりでプランをたて、航空チケットやホテル、バイクなどの手配、保険の手続きなどをしなければならないとなると、これは想像以上に困難かつ面倒な作業。

そのために行きたくても行けずにいる人も多いのです。

そこでおすすめするのが『JAL／YESSスーパーツーリング』。ジャルパックとの提携により、面倒なことは一切おまかせでゆったりツーリングを楽しめます。

今回は、夏を迎える南半球オーストラリア・シドニー－ブリスベンが舞台。憧れの大陸を、FZR600やFJ－200で走る魅力いっぱいのプランです。ぜひ幅広くご案内ください。

●スーパーツーリングin オーストラリア

料金／379000円（2・3月出発／1名）。出発日によって異なります。

出発日／1月12・18日、2月9・15日、3月8・14日、4月12・18日、5月10・16日、6月14・20日の計12回

問合せ／㈱ジャルパック ☎03（3435）3602

SERVICE
いつも基本は〝まごころサービス〟優れた技術力養成は日頃の努力から！

お客さまに、いかにプロショップとして信頼いただくかは、これからのご商売で最も大きな課題のひとつです。

接客態度、応対の速さ、技術力の確かさなど、向上させていくべき要素はいくらでもあります。ひとつずつ、少しでも進歩するよう、日々の仕事のなかで工夫を重ねたいものです。

そのなかで、個性を生かした自分なりの方法を探すことが、ひいては他店との差別化をはかる魅力づくりにもつながり、大きな効果を生む秘訣です。

しかし、気をつけたいのは、単なる自己満足に陥ってしまうこと。講習会やマニュアルを利用して、基本をしっかり身につけることをお忘れなく。

■YTSヤマハ二輪車整備士講習会日程

会場＼日時	12月	'92年1月
北海道ヤマハ		2M 23-25 / 4M 27-29 / 4M 30-2/1
ヤマハ東北	B 3-5 盛岡 / B 10-12 盛岡	B 20-22 仙台 / B 23-25 仙台
東京研修センター	B 3-5 / 2M 9-11 / B 16-18	
(ヤマハ中部)研修会館	4M 11-13	2M 20-22 北陸 / 4M 23-25 北陸
神戸研修センター	2M 10-12 / B 17-19	B 22-24
ヤマハ中国	B 3-5 山口	B 16-18 岡山 / B 22-24 広島
ヤマハ四国	B 10・11・17・18 高知	
福岡研修センター	2M 4-6	

B／ベーシック　2M／2サイクルマスター　4M／4サイクルマスター　D／ドクター

※都合により開催日の変更および中止をする場合がありますので、ご了承ください。

■サービスマニュアル（12月追補版）

モデル	注文No.	価格
TZR250R・SP	3XV-28197-06	¥600

※価格はメーカー希望小売価格です。
消費税額は含まれません。

KART

四輪モータースポーツをより気軽に楽しめる新カート『FK-9』新発売

大ブームを巻き起こしているF-の、迫力あふれる走りをいっそう気軽に味わえる新しいカート『FK-9』が、12月1日、新発売となりました。

これは、"体験する四輪モータースポーツ"の中でも"ミニF-"として大変な人気を集めつつあるレーシングカートと、ほとんど遜色のない走行性能、ドライブフィーリングを持ちながら、より幅広い人たちも気軽に乗れる扱いやすさを備えているのが特長です。

レーシングカート用フレームに、ヤマハ伝統の2サイクル・82cc・単気筒エンジン、カート用フロートレスキャブレターを搭載し、レーシングマインドいっぱいのスリックタイヤ、ボディカウルを組み合わせた車体は、まさにF-を思わせるスピードとシャープなステアリング性能を発揮。

しかも、アクセルとブレーキ、ステアリングホイールだけのシンプルな操作系、エンジン始動がラクなセルスターター方式、燃料混合の手間を省く分離給油方式などの採用で、面倒な手間や操作も必要ありません。

また、走行施設周辺の環境を考慮し、十分な騒音対策も施しています。ぜひ四輪モータースポーツに興味のあるお客さまにご案内ください。

なお、FK-9を走行させるためには、専用のクラブ『Y'sKafé（ワイズカフェ）』入会と、専用ドライバーズカードの取得（ドライバーズスクール受講は無料。カード発行料のみ有料）が必要です。

FK-9取扱い店、ワイズカフェ入会などについてのお問い合せは、ヤマハ発動機・MC国内営業部営業企画課またはワイズカフェ事務処理センター（☎03-39-5-08-3）までおたずねください。

FK-9 メーカー希望小売価格：¥399,000

SUGO

冬休みは子どもたちが主役！恒例『わんぱく&ジュニアスキースクール』

日頃、ご商売にイベントにと大忙しの社長さんや店長さん。たとえ休日とはいえ、なかなか家族サービスもままならない方も多いのでは？

冬休みくらいはみんなで……とお考えなら、ぜひSUGOの各種パックツアーをご検討ください。ご予算や日程に合ったプランがきっと見つかります！

しかし、それも難かしいという方や子ども同士で遊ばせたいという方たちにはこれ。『冬休みわんぱく&ジュニアスキースクール』があります。

すでに今回で35回目を迎え、SUGO恒例の名物ツアーとして、厚い信頼と定評をいただいているプランです。

東京・上野を発着地に、新幹線往復チケットからSUGOでの宿泊、食事、スキーレッスン、リフト代、保険料まで、およそ必要な費用はすべてパック。そのうえ、経験豊富なスタッフがお世話しますから安心です。

もちろん、スキーのほかにも室内ゲーム大会など楽しい催しも盛りだくさん。お子さまの遊び心を充分に満足させることでしょう。

仙台発着のコースもあります。

●第35回わんぱく&ジュニアスキースクール

日程／12月26日(木)～30日(月)・4泊5日

対象／わんぱく・小学3年～6年生
ジュニア・中学1年～高校生

費用／わんぱく・東京62000円
仙台49000円
ジュニア・東京70000円
仙台52000円

会場／スポーツランドSUGO
宮城蔵王白石スキー場
えぼしスキー場

詳しくは、スポーツランドSUGO・東京営（☎03・3575・4771）仙台営（☎0224・83・4711）までおたずねください。

AD

12月のヤマハ提供番組

■ONアンドOFF

陸と海、2つの大きなフィールドを舞台に展開するすばらしいヤマハワールドの数かずをご紹介する番組です。

巧みなカメラワークを駆使した美しい映像と選び抜いたBGMで、話題性に富んだテーマをスポーツマインドたっぷりにお届けします。

▼12月7日〈バイク編〉
『カスタムナイフの世界』

▼12月14日〈マリン編〉
『フィロソファー45』

▼12月21日〈バイク編〉
『バイク・ストーリー』

※都合により、一部内容が変更となる場合があります。

※一部地域では放送日が異なります。

テレビ北海道、テレビ東京、テレビ大阪、テレビ愛知、テレビせとうち、ティー・エックス・エヌ九州／毎週土曜日18時30分から18時45分。静岡放送／毎週日曜日10時45分から11時。東日本放送／毎週土曜日24時00分から24時15分。テレビ新広島／毎週木曜日24時35分から24時50分。

■NNN・今日の出来事

毎日のさまざまなニュースやスポーツ情報を、タイムリーにお届けする夜のニュース番組。知的でさわやかな桜井良子キャスターを中心に、それぞれ個性的なキャスター、コメンテーターが切れ味鋭くテーマに迫ります。

日本テレビ系列全国29局ネット。ヤマハ提供・毎週火曜日23時～23時55分。

■オリジナルコンサート
私たちの創った世界

世界各国で精力的に活動を続けている(財)ヤマハ音楽振興会「ヤマハ音楽教室」。そこで育った世界の子どもたちによる自作自演コンサートの模様をお届けします。日曜の朝をすがすがしく彩る純粋な音楽の響きをゆっくりとお楽しみください。テレビ朝日系全国17局ネット・放送日／毎週日曜日。放送時間／7時30分から8時。

ヤマハの特別仕様車を駆り 風間深志さん南極横断に出発！

1987年、バイクによる史上初の北極点到達に成功した風間深志氏が、11月17日、また冒険の旅に出発しました。今回の目的地は、南極点。バイクでの南極大陸横断という史上初の試みです。

今年は、1959年に締結され、1961年に執行された南極条約の見直しがなされた年で、今後50年間は、いかなる国も資源採掘のために南極を開発しないという合意がなされました。風間さんの今回の冒険は、単に極限へのチャレンジというだけでなく、南極大陸の恒久的平和利用とその南極条約の無期限凍結を世界に提唱するものです。さらには、南極大陸の自然を損わない無騒音、無公害のバイクで横断することにより、モータリゼーションの無公害化を広く世界に提唱するといった、地球の自然、地球の平和を願うデモンストレーションでもあるのです。

10月22日には、記者会見が行なわれ多勢のプレスが集まり、関心の高さをうかがわせた

南極大陸横断には、1台のモーターサイクルを2台のスノーモビルが随行支援する方法が取られますが、ヤマハは、冒険を通して地球環境問題への認識を広め、同時にモータリゼーションと自然の共存を広くアピールしようという風間さんの計画に賛同。冒険に使用するマシン・ヤマハOU70"ウィスパー・ダンサー"(囁く踊り子)を開発しました。

このマシンは、排気量200ccの水冷、2サイクル、ピストンリードバルブ吸気、混合潤滑エンジンを、特別設計のダブルクレードルフレームに搭載。風間さんの意向を第一のテーマに、低騒音化、低公害化の極限に挑戦した設計となっています。そして、北極点到達に使用したヤマハトレールTW200改、およびヤマハマウンテントレール・セロー225改での南極走行プリテスト等で収集したノウハウや技術データを最大限に活用し、厳しい条件下での走行に耐えるさまざまな特殊装備を施しました。

一行は、12月3日にケープアダムスよりスタートし、12月30日に南極点到達。翌年1月2日に南極点を出発し、2月2日にロス海ケープエヴァンスに到達して、2月中旬には日本に帰国する予定です。

パートナーとなる"ウィスパー・ダンサー"とともに、力強く成功を約束

関西でも熱心なファンが大集合！ "ヤマハイズム"を語る会in琵琶湖

ディバージョンをはじめとするヤマハのバイクや、バイク造りに対する思い入れを、大いに語り合いながら"ヤマハイズム"とは何かを探ろうという、『スペシャルバイクフォーラム"ヤマハイズム"を語る会in琵琶湖』が、11月10日、ヤマハマリーナ琵琶湖で開催されました。

このイベントは、ライダースクラブ誌とヤマハ関西の共催で開催したもので、10月に東京でも行なわれて好評を博しましたが、今回の関西会場も大盛況。120名の定員に対して、それを軽くオーバーする申し込みがあり、150名まで拡大してもまだ多くのお客さまをお断わりしなければならなかったほどでした。

さて、絶好の秋晴れに恵まれたこの日は、フォーラムに先だってディバージョン試乗会もあり、まず実際に乗ってみようという参加者たち約90名が試乗。乗り味を確かめたうえでフォーラムに臨みました。

そのおかげで、ライダースクラブ・根本健編集長やディバージョン開発担当者とのディスカッションは活発な質問や意見交換がなされ大賑わい。

東京に負けず劣らず熱心なヤマハファンと作り手が、お互いに心から触れ合い、理解し合えた有意義な1日となりました。

まず乗って確かめてからフォーラムに参加することで、参加者の理解がより深まった

司会役の根本編集長も愛情たっぷりに熱弁を奮った

帰路の無事を祈りながら、解散前の記念撮影。写真は参加記念としてオリジナルフレームに納められ参加者へと渡された

ディバージョン談義に〝花〟浜名湖で中部オーナーズミーティング

ディバージョンを題材としたバイクフォーラムが好評を博すなか、ヤマハ中部では、ディバージョンに乗るお客さまを集めて『ディバージョンオーナーズミーティング』を開催。オーナーならではの熱の入った話題で、初冬の一日をホットに過ごしました。

11月17日、うららかな小春日和に恵まれたヤマハマリーナ浜名湖に、自らのディバージョンを駆り、オーナー20名が集合。この日はヤマハから開発に携わった技術陣やデザイナーの面々も合流し、昼食を囲んでのディバージョン談義に花を咲かせました。

ミーティングはまずオーナーのみなさんの自己紹介から始まり、購入した動機や日頃の使い方などをジョークを交えて披露。笑いが渦巻く中にもレプリカ車にはない扱いやすさと乗り味、独自のデザインに評価が集中し、購入後の満足度の高さを物語っていました。

また、続いて行なわれた開発陣との懇親会でも、オーナーならではの鋭い質問や要望が積極的に出る中、愛車の生い立ちや開発陣の情熱にみなさん納得顔。満足度をさらに高めるとともに、これを機会にオーナーズクラブ発足をとの話題も飛び出すほどの盛り上がりを見せ、ミーティングを終了しました。

開発陣との交流、情報交換、親睦、とても有意義なイベントとして評価を得た

平選手が学園祭で恩返し講演会

ヤマハワークスライダーとして数々の優れた成績を残し、国内二輪レース界の顔とも言うべき平忠彦選手が、11月3日、埼玉県大宮市・埼玉工業専門学校で講演会を行ないました。

これは、平選手が高校時代お世話になった恩師の招きにより、同校の学園祭・特別講演として実現したものです。

〝オートバイと私〟と題し、およそ一時間にわたってバイクとの出会いから現在に至るまでを語った平選手は、初の単独講演で、しかも500名もの聴衆を前に緊張しきり。

最初のうちこそところどころ言葉につまる場面もありましたが、持ち前の真摯な態度と語り口で聴衆を魅き込み、大きな拍手と共感を呼びました。

この学校は、もともとモータースポーツに理解のある校風ですが、これでさらにその気運が高まったようです。

レースの時の心境など、めったに聞けないナマの話をたっぷり披露

ナマの交通情報をレポートする〝渋滞なくし隊〟でジール大活躍！

生きた情報収集にディバージョンが大活躍

ご存じのとおり、東京の道路は常に大混雑。特に朝のラッシュ時となると、渋滞のない道を避けて通ることは至難の技といえます。

そこで、もっと有効な交通情報を提供し、少しでも渋滞集中を解消できないか、という発想から生まれたのが〝渋滞なくし隊〟です。

実はこれ、ラジオの文化放送が10月7日からスタートさせた朝の新番組『寺島・藤井のジャストミート』で放送される企画のひとつ。朝、通勤や業務で車を走らせるドライバーの方たちに本当に喜ばれる情報をつかむため、平均22歳というライダーギャル7名で構成される〝渋滞なくし隊〟が、都内各地を東奔西走します。

そして、渋滞している地点に駆けつけ、列の先頭から最後尾までの距離やスピード、渋滞原因とその状況などをオンタイムでレポートするわけですが、その彼女たちの重要な機動力として活躍しているのがヤマハ〝ジール〟です。

安定した走行バランス、十分な低速トルク、足つき性のよさ、取り回しの軽さなどのおかげで、毎日安心して仕事ができると彼女たちのウケも上々。

スタート当初から何日も雨にたたられたり、決してラクな役目ではありませんが、安全にすばやく正確なレポートを送るため、今日も抜群のコンビネーションで番組を支えています。

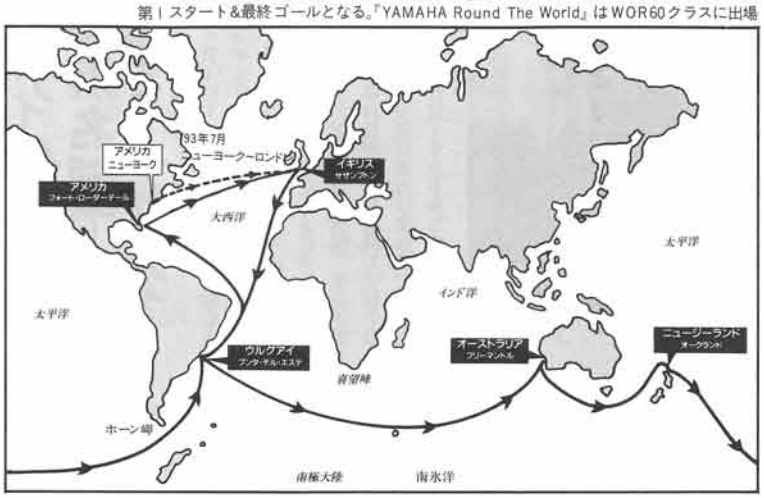
毎週月曜～金曜・朝6時～9時・1134KHzで放送中。

世界最大級の外洋ヨットレースにヤマハが日本チームとして初参戦！

ヤマハでは〝世界の人びとに、新たな感動を提供しよう〟と、世界GPやF-GP、パリ・ダカールラリー、アメリカズカップヨットレースなどさまざまな世界の頂点イベントにチャレンジしてきましたが、このたび、世界で最も長距離で壮大な外洋ヨットレースとして知られる『ホイットブレッド世界一周レース1993～94』に参加することになりました。

このレースは、'93年9月にイギリスのサザンプトンをスタートし、世界4カ国に寄港しながら6区間合計約6万km（地球一周半）を250日あまりの日数をかけて走破するというもので、モータースポーツでいえば、アメリカズカップが一対一のスプリントレースにあたるのに対し、『ホイットブレッド……』はパリ・ダカのような耐久ラリーといえます。

『ホイットブレッド世界一周レース1993—94』の予定コース。イギリス・サザンプトンが第1スタート&最終ゴールとなる。『YAMAHA Round The World』はWOR60クラスに出場



その挑戦にあたり、ヤマハは世界中の優れた技術、人材を集めて必勝を期するべく、輝かしい実績をもつシンジケート（チーム）〝オーシャンベンチャーズ〟（ニュージーランド）と共同シンジケートを結成。そして、世界に飛躍するグローバル企業としての姿勢をアピールするため、『YAMAHA Round The World』と名付けました。

今後は、クルーの決定、挑戦艇の建造に着手したあと、'93年7月〝ニューヨーク～ロンドン大西洋横断レース〟に参加して腕だめしを行ない、'93年9月25日の本戦スタートに備える予定です。

〝ジール〟と〝ジョグ〟グッドデザイン賞に輝く

みなさんには、もうなじみの深い『グッドデザイン賞』、通称〝Gマーク〟ですが、このほど通産省より平成3年度の受賞商品発表があり、今年もヤマハは輸送機器部門において〝ジール〟と〝ジョグ（YG50）〟など5機種が選ばれました。

この賞は、オリジナリティが高く、デザインの優れた商品に与えられるもので、選ばれた商品にはGマークが付けられます。

各企業から申請された商品のなかから、外観だけでなく、機能、品質、価格までも審査の対象として選定され、昭和32年以来続いている実績のある賞だけに、Gマークをもらうことは、外観、機能ともに優秀な商品であるとの証明になります。

特に今年は、デザイン水準が著しくアップしていたとのことで、ヤマハの5商品は、例年にも増して完成された美しさと個性をもっているといえるでしょう。

受賞商品は、ジール、JOGのほか、レジャー用クルーザーFG109、フィッシングボートFR-26、産業用無人ヘリR-50

ハンガリーでも郵便車にヤマハバイクが勢ぞろい

バイクは、レジャーやスポーツで使われるばかりでなく、さまざまな職業の機動力としても貴重な存在です。

その代表的なものが、日本では赤いバイクでおなじみの郵便車。ヤマハは、メイトをはじめ、数多く活躍していますが、海の向うハンガリーでも郵政局に195台のSR125が導入されることになりました。

今後は、首都ブダペストとその周辺で速達便の集配を任うとのことで、俊足、信頼性の高さに早くも期待が寄せられています。

SR125は輸出仕様車で、4ストローク・空冷・単気筒エンジン、低シート高の扱いやすいスポーツバイク

■Y.E.S.S.イベントスケジュール（12月）

地区	日程	イベント	会場	連絡先
関東	12月15日	Y.E.S.S. No.1 CUPセフティミニバイク筑波シリーズ	筑波サーキット	セフティミニバイク事務局 ☎03(3617)9748
中部	12月1日	Y.E.S.S. No.1 CUPつま恋第6戦	つま恋カートコース	Y.E.S.S.浜松事務局 ☎053(441)5611
	12月6日	Y.E.S.S. クリスマススペシャル	JOYアメックス呉竹荘	Y.E.S.S.浜松事務局 ☎053(441)5611
	12月8日	Y.E.S.S. No.1 ミニバイクレース東海シリーズ	作手カートランド	Y.E.S.S.岡崎事務局 ☎0564(21)7131
中国	12月8日	Y.E.S.S. 中国エンデューロ大会	グリーンパーク弘楽園	Y.E.S.S.中国本部事務局 ☎082(285)4911
九州	12月8日	Y.E.S.S. ミニバイクエンデューロ第4戦	城山モータースポーツ場	Y.E.S.S.佐賀事務局 ☎0952(32)0811

地区	日程	イベント	会場	連絡先
九州	12月8日	Y.E.S.S. X'masパーティ	ディスコファオス	Y.E.S.S.福岡南事務局 ☎0942(52)8000
		Y.E.S.S. ボーリング大会	鹿児島トウフクボウル	Y.E.S.S.鹿児島事務局 ☎0992(68)5101
	12月15日	X'masパーティ	第一ホテル	YSP国分 ☎0995(45)5678
		Y.E.S.S. X'masパーティ	ディスコイマジン	Y.E.S.S.福岡事務局 ☎092(414)7411
		Y.E.S.S. X'masパーティ	ディスコZIPANG	Y.E.S.S.宮崎事務局 ☎0985(24)5515

BOOK

保存版・'91WGPの軌跡『サイクルサウンズ特別編集 GRAND PRIX'91』

W・レイニーの500ccクラス連覇で幕を閉じた'91ロードレース世界選手権シリーズ。

たゆまぬマシン開発と鉄壁のチームワーク、そして他を圧倒する正確なライディングが、ヤマハに再びチャンピオンの栄冠をもたらしました。

しかし、その過程は決してラクなレースばかりではありませんでした。強力なライバルたちを相手に展開された史上まれにみる大混戦を勝ち抜いての結果です。

この本は、そうした世界グランプリの全戦を、迫力ある写真とデータ、レポートでつづる記録性の高い一冊。ぜひ店頭にお備えください。

レイニーの大型ポスターカレンダー付き。

山海堂・刊　980円

MUSIC

今年いちばん売れた曲はなに?『オリコン・CDトップ10』

「東京ラブストーリー」「101回目のプロポーズ」と、テレビドラマの大ヒットによって小田和正『ラブストーリーは突然に』が260万枚、CHAGE&ASKA『SAY YES』もそれに迫るミリオンセラーを記録。

どちらが今年のトップを奪うか興味のあるところです。

また、この2曲と同様、しっとり聴かせるラブソングを歌う辛島美登里も、注目したいひとりといえます。

順位	タイトル	アーティスト
①	EXTRA FLIGHT（エクストラ フライト）	LINDBERG（リンドバーグ）
②	TREE（トリー）	CHAGE & ASKA（チャゲ アンド アスカ）
③	TOMORROW（トゥモロー）	浜田麻里
④	麗蘭	麗蘭
⑤	Zinc White（ジンク ホワイト）	辛島美登里
⑥	ハマーII	ハマー
⑦	SINGLES（シングルス）	織田裕二
⑧	歌でしか言えない	中島みゆき
⑨	エモーションズ	マライア・キャリー
⑩	デケイド・オブ・デカダンス	モトリー・クルー

（11/11付　オリコン調べ）

GOODS

1/5ビッグスケールのRCバイク『スーパーG-CON FZR750R』

二輪で自立走行し、本物さながらの臨場感ある走りを楽しめるRC（ラジオコントロール）バイクは、今も高い人気を誇るホビーです。

なかでも、実車の5分の1というビッグスケール（約42cm）で注目のシリーズが『G-CON』。特に今回新発売された『スーパーG-CON』は、強力な"RS540"モーターを採用し、約40km／hのハイスピード走行が楽しめるというものです。

しかも、アンダーカウル内にタテ置きされたバッテリーを左右に移動させ、重心移動で車体をバンクさせるというコーナリングは、いかにもリアル。

車種はFZR750R（0W01）ほか2種。1セット（本体・送信機）・29800円。

問合せ／㈱グリーン
☎0282・82・1112

TREND

若さは気の持ちよう?トシに負けない"オジンパワー"

もう間もなく'91年が過ぎようとしています。この1年、みなさんにとっては果たしてどんな年だったでしょうか。

年末というのは、いろんな意味で1年を振り返り、また来年への目標とか希望を新たにする時。できる限り、明るい期待で胸はずませて新年に臨みたいものです。

とはいえ、ある年齢を過ぎると、「ああ、またひとつ年を重ねていくなぁ」などと枯れたセリフが口をつき、感慨に耽る時期でもあります。

モータースポーツを含め、スポーツ各界では新旧交代、去就をめぐるストーブリーグが賑わいますが、体力が勝負のこの世界、30歳あたりがひとつの分岐点といわれており、一般社会だとこれから油が乗りきってくる時に、早くもピークを迎えてしまいます。

ところが、最近はどうも傾向が変化してきました。40歳近くのベテラン勢が大変ながんばりを見せているのです。

例えば大ブームを巻き起こしているF1では、現役最年長39歳のピケが今年も1勝を挙げているし、38歳のマンセルはチャンピオンを争ったほど。

また、日本プロ野球界の鉄人・門田博光は43歳にして20ホームランを記録、いまだチームの主軸打者です。

さらにプロテニスプレイヤーのコナーズは今年39歳で全米オープン・ベスト4進出。プロボクサーのホームズは42歳で現在、2度目の復活後4連勝中。来年、世界戦を狙っているといいます。二輪出身者では、ヘクサスロン（6種競技）で体力の極限に挑戦した加藤文博がいますしほかにも、サッカーのジーコ（38歳）など、"不惑"のベテランパワーは例を挙げれば枚挙に暇がありません。

スポーツ心理学で分析すると、経験を積み、精神的な成長を重ねれば、セルフコントロールがうまくなるし、合理的なトレーニングによって少なくとも技術面では低下しないそうです。

肉体的にも、トレーニングで衰えを遅くすることはできますし、むしろ、周囲の人や前例を気にして自ら「だめだな」と限界を作ってしまい、努力をしなくなることが大敵なのです。

そろそろ体力が続かないから、ツーリングに同行するのはヤメようか、なんて弱気になっていませんか?

'91 YAMAHA NOVELTY

聖夜の贈り物

●クリップケース
(No.372064/250円)
マグネット付きのクリップ入れですが、何とも愛敬のある丸っこいボディは机の上のオブジェにぴったり。

●カリキュレーター
(No.372079/3000円)
石コロのようなユニークなデザインは、左手にしっくりなじむ握りやすさ重視。変形卵形のキーも、意外に操作しやすい形と配列。四角四面じゃない、人間的なぬくもりが伝わります(?)

●プラスキーホルダー
(No.372026/700円)
美しいゴールドの輝きが、使いこむほどにシブく色落ちして重厚な味わいを持たせる真ちゅう製キーホルダー。時とともに深みを増すお付き合いを願って……。

RR

'91全日本ロードレース選手権シリーズ第17戦（MFJ GP）

P・ゴダード全日本チャンピオン獲得！ランキング2位に藤原儀彦

全11戦で毎レース確実にポイント獲得。優勝2回、2位2回、4位3回など計155ポイントで全日本初タイトルを獲得したゴダードとYZR500

3月の鈴鹿2&4で幕を開け全17戦のシリーズ戦で行なわれた今シーズンの全日本ロードレース選手権。そのフィナーレを飾る「WOWOWカップ第28回MFJグランプリ」の決勝が10月27日、雨の筑波サーキットに2万3千余の観衆が熱い喚声を送る中で開催され、メインレースのGP500ccクラスでヤマハYZRを駆るピーター・ゴダード（伊太利屋ヤマハチームハヤシ）が優勝。劇的な最終回逆転シリーズチャンピオンを決めた。

今年の500ccクラスは全11戦。緒戦で優勝した藤原儀彦（キリンメッツRTヤマハ）が9戦目の鈴鹿大会までポイントリーダーとなったが、続くTBCビッグロードでノーポイント。これで伊藤真一が首位に立ち、チャンピオンの行方は最終戦に持ち越された。伊藤、藤原、岩橋健一郎、ゴダードの4人が16ポイントの中にせり合い、この4選手にチャンピオンの可能性を残して迎えた筑波。決勝は大雨のため予定の25周から18周に短縮されシグナルグリーンへ。

「チャンピオン獲得のことなど考えず、思いきり走っただけ」とゴダード。表彰台では全身で喜びを現わした

激戦の中から確実走法で抜け出し、ファクトリー勢を尻目に国際A級250cc初優勝を飾った㉘加藤義昌

降りしきる雨の中、ゴダードはスタート直後の5番手から追い上げ12周目、先行する本間利彦（YRTR）をパスしてトップへ。その後も首位を快走して優勝。2位に片山信二（YMOレーシングチームヤマハ）、3位に本間が入賞しYZRが表彰台を独占。一方伊藤は12周目に転倒リタイアのノーポイント。藤原は11位8ポイントにとどまったが、シリーズランキング2位となり、ヤマハは、ランキング1・2位を独占した。

そしてもうひとつの激戦区。GP250ccクラスでも激しい雨をついて25周の決勝が行なわれたが、ここでは市販TZを駆る加藤義昌（杉孝&SP忠男RT）がファクトリー勢を迎え打って同クラス初優勝を飾った。この決勝、新垣敏之、L・カダローラらの先行で前半を終了するが、1周目9番手につけていた加藤は1周1台の確実なペース配分で先行車を抜き去り10周目にトップに浮上。後半はトップをキープしたまま逃げ切って国際A級F3での4勝を含めA級通算5勝目を飾り来季への期待を一身に浴びていた。なお、ランキング2位がすでに決まっている原田哲也（ネスカフェRTヤマハ）はポールポジションスタートながら2度にわたるピットインの後リタイアに終わった。

なお、TT・F1クラスの永井康友（YRTR）はこの日6位でチェッカー。ランキング2位でシリーズを終えた。

シリーズ戦はこれで全日程を終了。1年間ヤマハライダーへのご声援ありがとうございました。

MX

'91全日本モトクロス選手権シリーズ第12戦 九州大会

D・ブラッドショー全日本を激走 ヤマハチームが1〜4位を独占!!

11月3日、オートポリスMXコースを舞台に開催された今シーズンの最終戦、九州大会。シーズンを締めくくるこの大会には、アメリカからD・ブラッドショー、J・エミッグ（ともにヤマハ）が出場し、2万4000人の大観衆を大いに沸かせた。

第1ヒート。ホールショットは宮内隆行が奪ったものの、オープニングラップを終える前に早くもブラッドショーがトップに浮上、2周目以降は大きく後続を引き離して独走で優勝を決めた。一方、2番手には2周目に川崎智之があがるが、チャンピオンの可能性を残した田渕が逆転、2位でチェッカーを受ける。3位には徐々にポジションアップしたJ・エミッグ、4位に川崎が入りヤマハが1〜4位を独占した。

また第2ヒートでも再びブラッドショーが飛び出し、その後は独走で両ヒートを制覇。2位には川崎が入って、総合成績でもヤマハが1〜4位を占めるヤマハデーとなった。

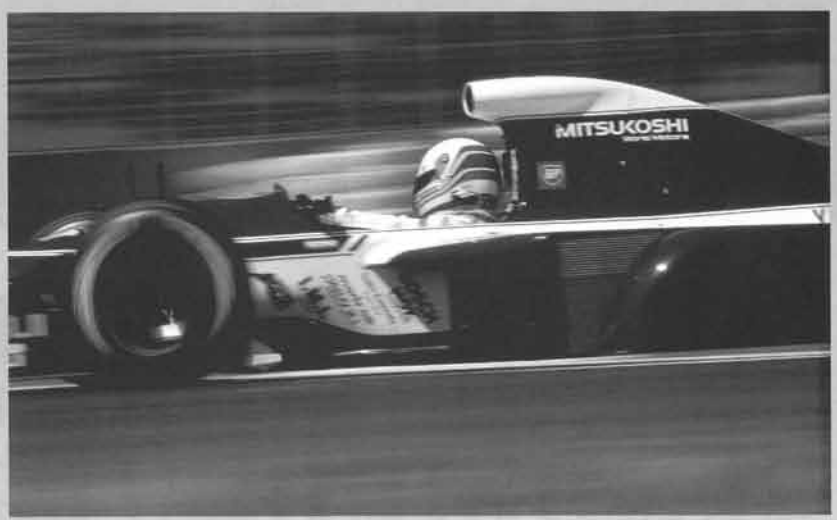
なおシリーズランキングでは田渕が2位、光安鉄美が3位、そして川崎が4位でシーズンを終了。来シーズンへの期待が早くも高まっている。

圧倒的なスピードを日本のファンに披露したブラッドショー

田渕は総合3位で最終戦を終了。惜しくも初タイトルは逃したが、ランキング2位を獲得した

▪ヤマハF1情報▪

ブラバム-ヤマハ ランキング9位で終了



11月3日、アデレードで開催されたF1グランプリ最終戦（オーストラリアGP）は、豪雨のため14周を終えたところで一時中断、コンディションの回復を待ったが雨は上がらず、14周終了時点で中止というハプニングの中で終了した。

17番手のグリッドからスタートしたM・ブランデルは、レース中に2度のスピンを起こしたものの、中止となった14周目にも17番手のポジションをキープ。結局これが最終戦の決勝結果となった。前戦の日本GPでは5位という好成績を収めていただけに残念な結果となっている。

チームマネージャーのジョン・マクドナルドは「最終戦に向けて全力をあげてきたのに、結果がこれでは辛い」と語り、また木村隆昭プロジェクトリーダーも「非常に良いセッティングが出ていただけに残念」と話している。

しかしヤマハは、名門ブラバムと新生チームを組んだ1年目で3ポイントを獲得。コンストラクター選手権では、9位のランキングを得て長いシーズンを終了した。'92年はジョーダングランプリと『7UPジョーダン・ヤマハ』としてシリーズ戦を戦うことがすでに決定しており、さらなる飛躍が期待されている。

他業界ウォッチング
Pint & Hint
ピント アンド ヒント
コンビニエンスストア業界

21世紀のコンビニエンスストアは総合生活サービスステーション!!

成熟市場と呼ばれるコンビニエンスストア業界だが、'90年度は8年ぶりに前年度の売上げ伸び率を上回る高い実績を記録した。成熟市場に再び勢いをつけた新たな試みとは何なのか？　今回は業界最大手の『セブンイレブン』に伺ってみた。

街の小売店から生活サービスステーションへ

――いまコンビニエンスストアの業界は、成熟市場の2ステップ目に入っているそうですね。店舗数が安定し、新たなチャレンジに入っている時期だと聞いていますが、成熟した環境でのさらなる成長というのは一体どのようなものなのでしょう？

「はい。セブンイレブンの第1号店がオープンしたのは昭和49年なのですが、その当時からの成長と現在進行中の成長とは、持っている意味が大きく違います。

当時の成長とは、コンビニエンスストアという店舗形態が日本の土壌に根付くまでの成長であり、いわゆる時間的なコンビニエンス、商品的なコンビニエンス、そして立地的なコンビニエンスが人々に認知されるまでの期間と考えていただくと分かりやすいかと思います。

それに対して現在の成長とは、商品の提供場所からサービスの提供場所への変化であるわけです。つまり小売りのストアから生活のサービスステーションへ、機能の幅を広げる成長なんです」

――なるほど。便利な機能の拡充ということですね。具体的にはどんなサービスが受けられるようになっているのでしょう？

「セブンイレブンの場合ですと、お客さまの約60%が10代と20代の若い方たちです。ですからこの層のお客さまが、どんなサービスを望んでいるのかを把握することから作業が始まります。

もうご存知だと思うんですが、セブンイレブンでは各種公共料金の支払いができるようになっています。さらに宅配便やDPE、このシーズンでしたらクリスマスケーキの予約も承っています。

たとえば独り暮らしの学生さんを思い浮かべてください。銀行口座からの自動引き落としも普及していますが、それでも現金でお支払いされてる方がたくさんいます。わざわざ支払い窓口まで足を運ばなくても、いつも買物しているコンビニエンスストアで用が足りるとなれば、やはりみなさん利用してくださるでしょう。朝早くても、夜中でも、それに日曜日でもOKなのですからね」

――そうしたサービス目的のお客さまによって、来店機会の増加というメリットも生まれてくるわけですね。

「そのとおりです。買物のついでに電話料金の支払いをするのと同様に、支払いのついでに買物をされる方もいますから。来店回数は週に2～3回が最も多いボリュームゾーンで、毎日という方を含めると約20%にもなっています」

いつでも買えて、すぐ食べられるファーストフードの伸長

――コンビニエンスストアの機能がサービス部門まで広がる中で、商品販売の方にも突出した変化は見られますか？

「ええ、ファーストフードの部門が拡大されつつありますね。お弁当、おにぎり、

お惣菜、ハンバーガー、それからおでん。こうした商品だけで全体の約20%の売り上げになっています。

衣・食・住という人間の基本的な生活要素の中で、コンビニエンスストアが補えるのは食だけですよね。しかし食に関しての供給先には、古くからスーパーマーケットというライバルの存在があるわけです。もちろんスーパーは価格的にも安いし、一方では外食産業も著しく伸びている。そんな環境の中でコンビニエンスストアが何を、どのように売るか、というのは非常に難かしい問題なんです。

ひと昔前に〝個食〟とか〝孤食〟とかいう言葉がありましたが、あれはコンビニエンスストアがファーストフードに力を入れた時から生まれたものなんです。スーパーで買うと確かに安いけど、量が多くて結局高くついてしまう。それに対してコンビニのファーストフードはひとり分、しかもいつでも買えて、すぐに食べられる。ここに業界が注目したわけです」

——若いお客さまは、値段より手軽さや便利さを選んだわけですね。ところで、コンビニエンスストアのような不特定多数のお客さまが相手のご商売では、顧客管理はどのようにされているのでしょう?

「レジでの清算時に、商品の種類や時間帯などの数項目をコンピュータにインプットします。それがオンラインで本部に届き、分析・加工された後に各店に届くシステムになっています。こうしたデータから、地域特性に合った合理的な商品提供やサービスの提供が可能になるわけです」

ジェネレーションギャップなんか感じない！ バイク＋遊びでベストコミュニケーション

ひと工夫した遊びで若いお客さまの心をつかむ

YOU SHOP HOT-1/伊東邦夫代表

神奈川県横浜市泉区緑園5-29-1 ☎045-811-8208

ロゴ入りグッズで宣伝とステータス意識を刺激

今の10代、20代の若者は新人類と呼ばれる。いや、新人類を超えて、新・新人類とさえ言われているそうだ。

「若い連中が考えていることはさっぱりわからない……」とは中年以降の世代によく聞かれる言葉だ。しかし、こんなぼやきの言葉のなかには、新人類世代とのコミュニケーションを拒絶してしまっている気持ちが見え隠れしてはいないだろうか。

新人類世代とコミュニケーションをはかるには、いったいどんな〝言葉〟を話せばいいのだろうか。ジェネレーション（世代）の間にあるギャップを埋めるにはどうしたらいいのだろう。

今回のハローナイスショップは横浜市泉区にある「YOU SHOP HOT−1」さんにおうかがいした。

横浜市の泉区は国道16号線・保土ヶ谷バイパスが通り、東名・横浜インターチェンジも近いなど都内や横浜への通勤を前提とした住宅開発が急速に進められている。HOT−1さんのある相鉄線・緑園都市駅もそうした町のひとつなのである。

うかがったHOT−1さんは駅からほど近い住宅地の一角に建っていた。周辺は分譲住宅やマンションが建ち並ぶ、ニュータウン。宅地開発が進められて間もないのか、現在もあちこちでマンション建設の途中だった。

「こんにちは！」

約束の時間よりだいぶ早く着いてしまった私たちを迎えてくれたのは、社

Hello NICE SHOP
ハロー・ナイスショップ
気になるお店のご商売

代表の伊東邦夫さん。身振り手振り、じつに表情豊かに話す方だ

店名ロゴ入りジャンパーを着てもらうことで『HOT―1』を一般の方にも知ってもらいたかった

長の伊東邦夫さん。クルクルとよく回る目が、精力的な印象を与える。

今年35歳になる伊東さんは4年前にHOT―1を出した。オートバイショップの前はクルマのディーラーで工場長まで勤めていたとか。

「店を出した当時、ここいら（緑園都市）周辺は開発が始まる直前でね。確か近辺で商店の店舗を出したのはウチが最初のはずだよ」

新進の店舗が顧客を獲得する。しかも町そのものがこれから、という町だ。

同じ店名ロゴ入りのジャンパーや帽子でも、来店年数やレース活動の有無でいくつかのパターンが用意される

これはなかなか難しいことなのでは？

「ウチでまず考えたのは、一般の方にもショップ名を知ってもらうことだったんです。そのために店のロゴ入りグッズを作って、常連のお客さまに着てもらって。横浜のあちこちで『HOT―1』の名前が走っている――気分いいよね。いい宣伝になるし」

ロゴ入りジャンパーを用意することで、お客さまのステータス意識を刺激する。そしてそれは同時にオートバイ業界のみならず、一般業界やオートバイにかかわりのないお客さまにもお店の名前をアピールできるというのだ。

オートバイショップを経営する伊東さんの発想は、しかし常にオートバイ業界の枠にしばられない。フレキシブルな考えは、例えばお客さまに提供する〝遊び〟にも表れている。

お客さま同士のコミュニケーションを図るため、手書き壁新聞をお客さまに依頼して作成

バイクだけの遊びはつまらない 遊びはもっともっと自由に！

伊東さんに話を聞いているうち、ショールームスペースの片隅にギターが置いてあることに気づいた。

今、バンドを組んで仲間同士で演奏するのが流行している。10代、20代の若いお客さまのなかにも、もう一つの趣味としてバンドをやっている方は多い。気になって尋ねると、

「僕のだよ、僕の。ウチのお客さんとバンド組んでやっているんだ」

驚いた。目の前の伊東さんはツナギ姿。どこから見てもバリバリのショップオーナーだ。一見「オートバイ以外は興味ないね」そんな感じなのに……。

「ウチのクラブのメンバーでHOT―1バンドというバンドを組んでいるんだよ。定期的にスタジオを借りて練習したり、テレビ番組で『イカ天』ってあったでしょ、あれにも出ようって狙っていたんだ」

今、店内にはエレキギターとアコースティックギターが置かれている。ところがつい最近までドラムのセットまでもが置いてあったそうだ。オートバイショップにドラムセット！　なんと型破りなショップなんだ。

「オートバイショップにドラムセットは変だよね。でもね、オートバイショップの固いイメージを崩すことにもなっていたんだ。僕よりずっと歳上の中年の女性のお客さまから『音楽をやるんですか？　若い頃はよく聴きにいったものですよ』なんて話も出て。話題が広がって、商談とはいえ人間同士のつながりが深くなったみたいですよ」

オートバイショップで話す会話はオートバイのことだけ、なんて誰が決めたのだろう。オートバイショップだからこそ、バイク以外の話で幅広いお客

スロットルレーシングやバンドなどの遊びでお客さまの心をつかむ。「つながりが強固なら、4輪免許を取ってバイクから離れたお客さまも呼び戻せる確率は高くなるよ」と伊東さん

一緒に遊びを作り、楽しむことで人は集まってくる 心のつながりができれば、世代の差なんて自然に埋まるよ

さまの心をとらえることが必要なのでは――伊東さんはこう考える。

「ちょっとこれ見てよ」そう言って、伊東さんは1枚の写真を取り出した。そこには伊東さんを中心に、演奏しているバンドが写っている。いかにも楽しそうだ。

「これはね、夏にやった〝ライブツーリング〟のときの写真なんだ」

ライブツーリング？　なんともユニークなツーリングだが、いったい……？

「ウチではね、夏にペンションを借り切って、そこでライブパーティーを開くんだ。演奏したいお客さまは演奏する、聴くに徹するお客さまは観客になってね。もちろん、ペンションまではツーリングとして楽しむ。だからライブツーリングなんだ、ハハハハ」

今のお客さまはオートバイ以外にも趣味を幅広く持っている。オートバイだけの企画なら、お客さまはいつか飽きてしまうだろう。走る楽しみのツーリングにプラスアルファの楽しみをドッキングさせることで、ツーリングの楽しみは2倍、3倍、いや10倍にもふくらむのではないだろうか。

「ライブツーリングのツーリング部分もちょっと趣向を凝らす。例えばオリエンテーリング的な要素を盛り込むとかね。走りたいというお客さまも、目的地で遊びたいというお客さまも、どちらも楽しめるように考えているんだ」

ドラマ『101回目のプロポーズ』にあやかって、ジョークでナットの指輪を作った

お客さまはいつも暖かく迎える、これが信条

遊び人を集める 年齢のギャップは感じない

HOT―1ではこのほか、サービススペースを開放してパーティーをおこなう「ガレージ・パーティー」や、スロットルレーシングの対抗戦、エアガンを使ったサバイバルゲームなど〝遊び〟の企画がめじろ押しだ。そのどの企画もが伊東さんやお客さまのなかから自然と生まれた発想。発想をそのまま実現してしまう実行力には驚かされてしまう。それにしてもここまで〝遊び〟にこだわるのはなぜなんだろう？

「ウチはね〝人を集める〟のがポリシーなんです。一緒に遊びを作り、楽しむことで心のつながりができる。年齢のギャップなんかもふっ飛んじゃうよ」

ジェネレーションギャップなんか感じないよ、と伊東さんは断言する。若い世代と〝遊び〟という共通の言葉で話す伊東さん。伊東さんを見ていると「オートバイショップが提供するものはバイクだけではない」あらためてこんなことを感じた。

HOT－1を支える（左から）中田さん、伊東代表、奥様の博子さん

Hello NICE SHOP
ハロー・ナイスショップ

■YOU SHOP HOT-1

横浜市でも急速に宅地開発が進められる泉区のニュータウン内に店舗を構える。相鉄いずみ野線・緑園都市駅を中心に広がる住宅、マンションは現在も続々と建設中で、東京などから移り住む住民が多い。若い夫婦が多いため、その子供たちが高校生になる10年後以降に本格的な集客が期待できる。

●オープン：昭和62年6月●店舗規模：敷地およそ49坪内に12坪のショールームスペースと8坪のサービススペースを備える。店舗2階は自宅として利用●展示台数：ショールーム内に新車4台、オープンスペースにはスクーターを中心に7台あまりを展示●商圏：店舗を中心に外側半径2キロほどのドーナツ状を呈する●客層：20歳代を中心としたサラリーマン層●クラブ：「HOT-1クラブ」を母体に、「HOT-1ギャルズ」「HOT-1オフロードクラブ」「HOT POWER」（レースチーム）●営業時間：午前9時30分～午後8時●定休日：毎週木曜日

広いガラス面積とグリーンを効果的に配置し、狭いイメージを払拭している

常連客にはロゴ入りジャンパーを作成・販売。常連のステータス性をアピール

用品・小物は店舗奥のスペースに陣列。商品構成が一目でわかるように配置している

ヤマハニュース12月号●1999年12月1日発行●発行所：ヤマハ発動機株式会社 広報室宣伝課 〒438静岡県磐田市新貝2500 ☎0538(32)1150(ダイヤルイン)

The Latest AD

■楽しむこと、遊ぶことに長けた二人が選んだもの…Diversionがつくる Diversionならではの世界を表現した最新雑誌広告です。

■風を意識し、風と遊ぶDiversionは、シート形状やグラブバーの装備など、タンデムライダーへの配慮も十分。2人乗りツアラーとしての新しい走りの楽しさを提唱します。

■どうぞ店頭からも、Diversionならではの快適な走りの世界を、お客さまにご案内ください。

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社